

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月

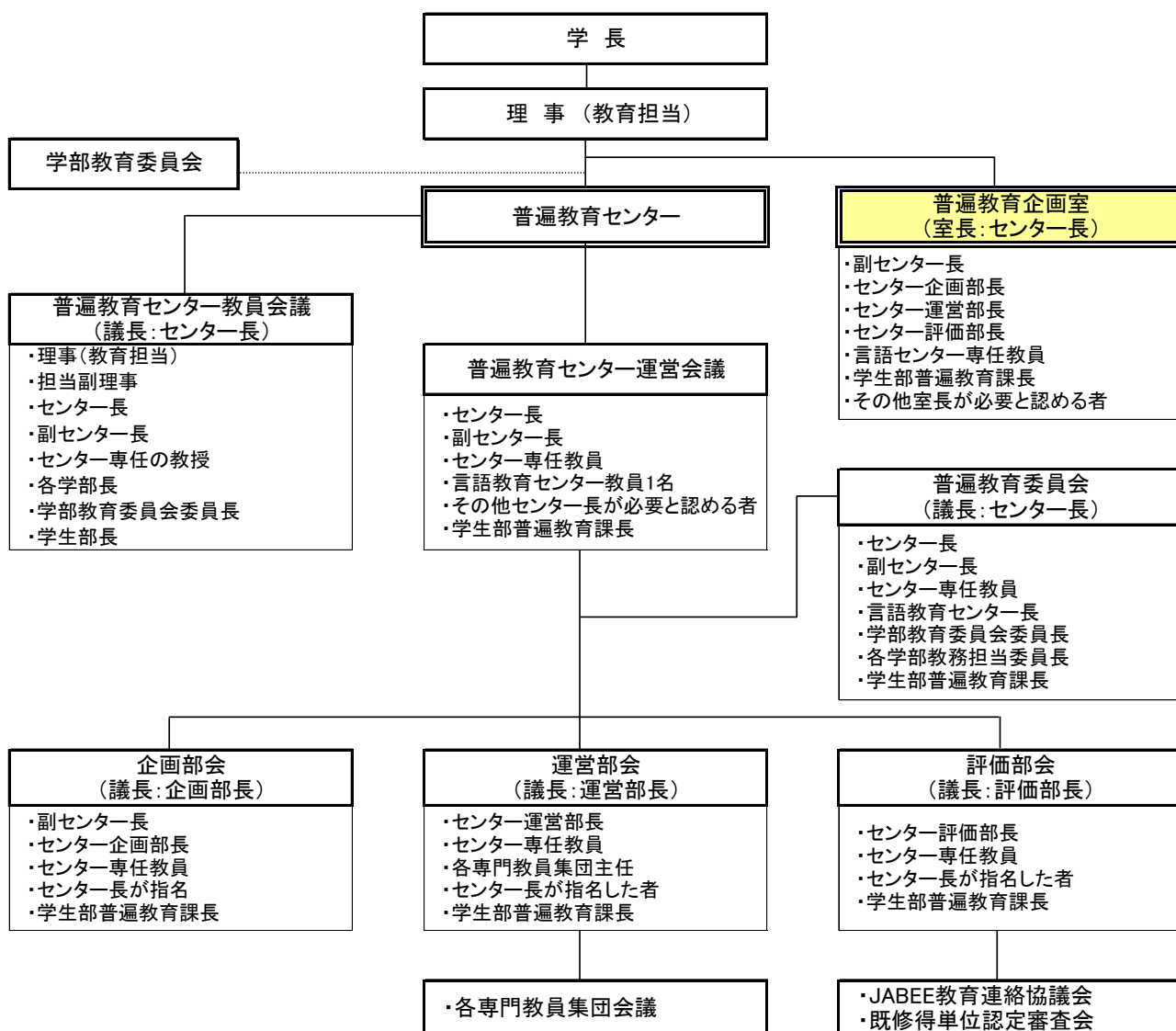
千葉大学

目 次

資料 1-1 普遍教育企画室概要図	1
資料 1-2 戦略的大学連携支援事業概要図	2
資料 1-3 意識・満足度調査結果（普遍教育科目関連項目）	2
資料 2-1 意識・満足度調査結果（語学系授業関連項目）	3
資料 2-2 中級・上級英語履修者数	3
資料 4-1 意識・満足度調査結果（情報関連項目）	4
資料 6-1 普遍教育における学外機関における体験学習や 奉仕活動等に係わる科目一覧	5
資料 6-2 普遍教育・授業アイデア公募事業公募要領	6
資料 7-1 質の高い大学教育推進プログラム概要	7
資料 7-2 意識・満足度調査結果（専門的知識、洞察力、探求力関連項目）	8
資料 10-1 単位未修得状況	8
資料 11-1 平成 21 年度 TOEIC-IP テスト実施状況	9
資料 15-1 英語による授業科目一覧	9
資料 15-2 国際研究集会参加者数及び国際学術雑誌論文投稿数	10
資料 17-1 先進的マルチキャリア博士人材養成プログラム概要	10
資料 19-1 新たな入学者受入れの方針	11
資料 20-1 オープンキャンパス参加状況	11
資料 23-1 園芸学部 4 学科 8 プログラム概要	12
資料 27-1 2010 年度シラバス作成の方針とガイドライン（改定）	12
資料 27-2 授業評価アンケート結果（シラバス関連）	14
資料 29-1 テーマゼミ開講状況	14
資料 30-1 FD 推進企画室規程	15
資料 30-2 意識・満足度調査結果（授業に対する満足度関連項目）	16
資料 32-1 Moodle 学生アンケート結果	16
資料 32-2 意識・満足度調査結果（教育環境関連項目）	17
資料 36-1 学術研究学生支援制度実施要項及び 学術研究学生表彰に関する推薦・選考要項	17
資料 39-1 留学生戦略・推進企画室規程	18
資料 39-2 留学生比率	20
資料 41-1 ナノイメージング・エキスパートプログラム概要	20
資料 41-2 科目等履修生規程新旧対照表	21

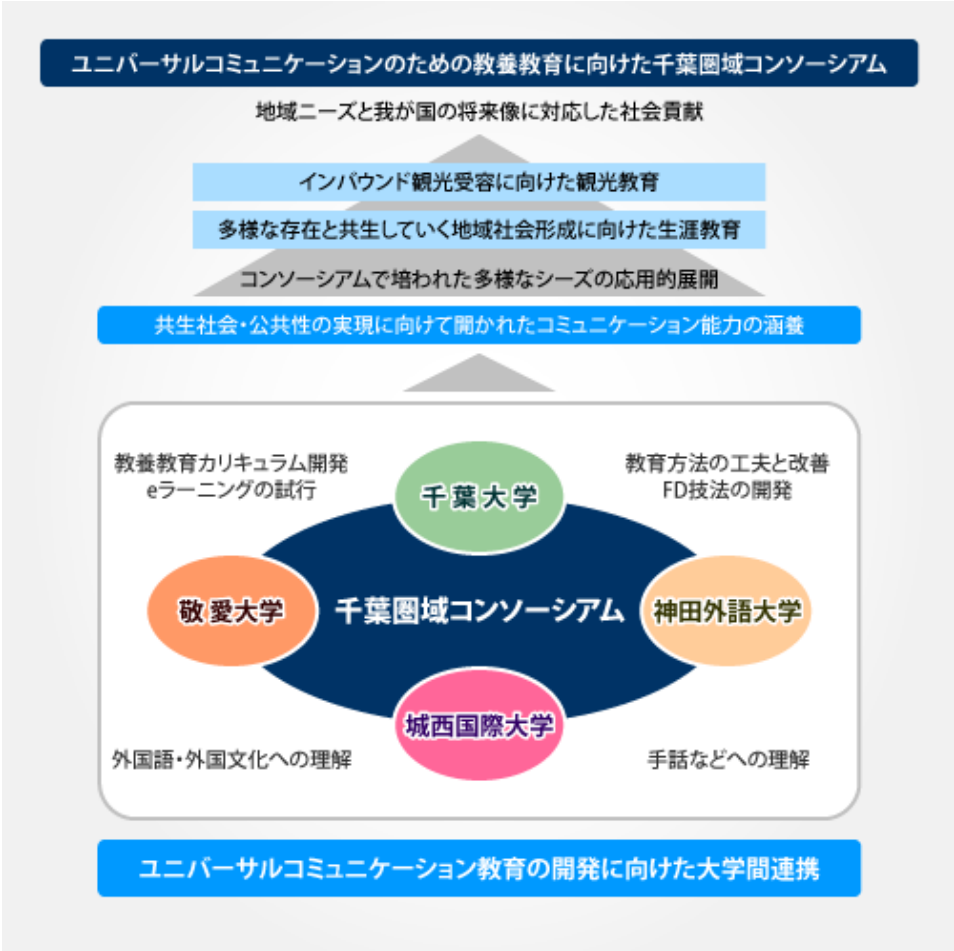
資料 45-1 学位規程新旧対照表	21
資料 48-1 普遍教育の運営における「全学出動体制」に関する申合せ	23
資料 48-2 普遍教育マニュアル（増補版）（目次）	24
資料 49-1 平成 21 年度「学生との懇談会」実施状況	25
資料 49-2 意識・満足度調査結果（学習・研究環境関連項目）	26
資料 53-1 意識・満足度調査結果（図書館関連項目）	26
資料 57-1 意識・満足度調査結果（情報提供関連項目）	27
資料 59-1 大学基本データ分析における点検・評価項目	27
資料 61-1 インセンティブ付与のための勤務成績の判定基準 （教員）の運用ガイドライン	28
資料 62-1 単位互換に関する協定書	29
資料 63-1 教育・研究等に関する包括協定書	30
資料 78-1 学生総合支援センター概要	32
資料 78-2 意識・満足度調査結果（自由に使えるスペース等関連項目）	33
資料 79-1 学内設計競技概要	34
資料 85-1 普遍教育 TA 研修会実施要項・アンケート結果（抜粋）	35
資料 89-1 意識・満足度調査結果（課外活動施設関連項目）	35
資料 91-1 協定締結数及び平成 20・21 年度新規締結校一覧	36
資料 91-2 意識・満足度調査結果（留学支援関連項目）	38
資料 96-1 特別 RA 実施要項	38
資料 99-1 本学からプレスリリースした主な研究概要	39
資料 101-1 千葉大学サイエンスパークセンター概要	43
資料 101-2 千葉学ブックレット既刊一覧	44
資料 102-1 研究支援企画室規程	45
資料 102-2 COE スタートアッププログラム応募要領及び採択一覧	46
資料 118-1 柏の葉カレッジリンク・プログラム概要	48
資料 119-1 製品化の例（外科用剪刀）	50
資料 123-1 平成 21 年度公開講座一覧	50
資料 123-2 未来の科学者養成講座プログラム概要	52
資料 127-1 地域連携及び地域貢献活動に係る 助成事業募集概要及び採択課題一覧	53
資料 135-1 留学生数	55

資料1-1：普遍教育企画室概要図



(出典：事務局データ)

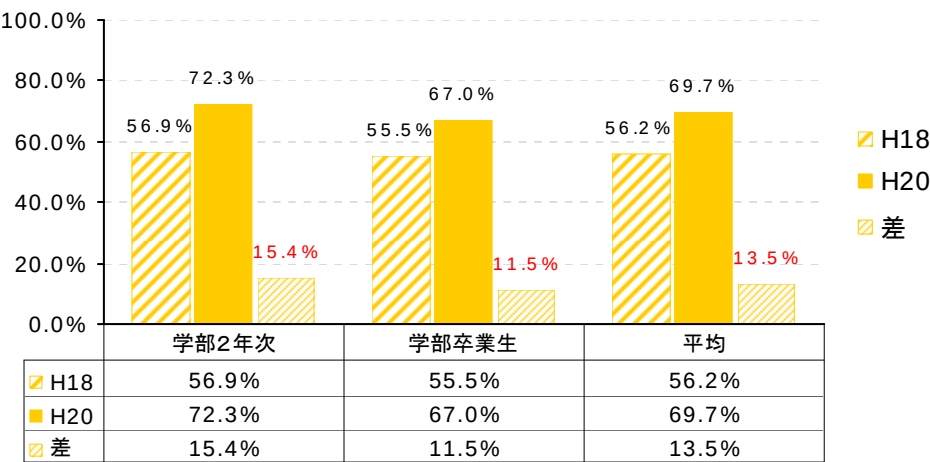
資料 1－2：戦略的大学連携支援事業概要図



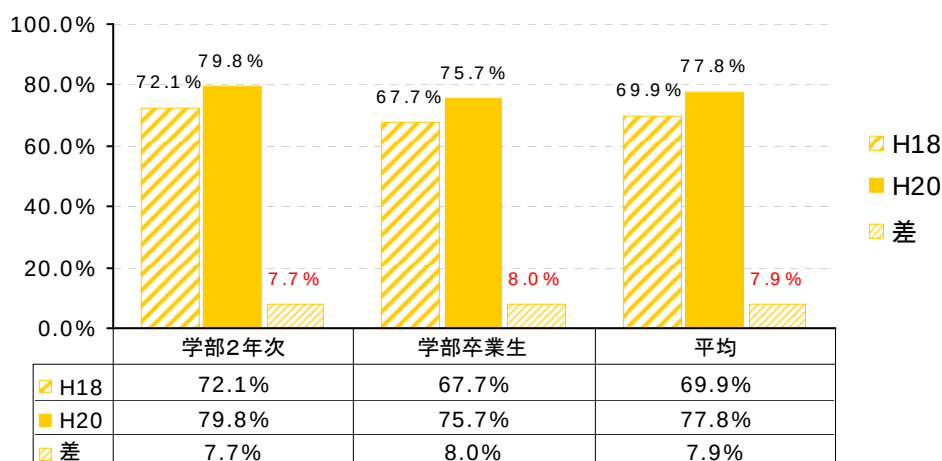
(出典：「戦略的大学連携支援事業」支援プログラムユニバーサルコミュニケーションのための教養教育に向けた千葉圏域コンソーシアム HP)

資料 1－3：意識・満足度調査結果（普遍教育科目関連項目）

◆ 普遍教育の授業全般（満足度）



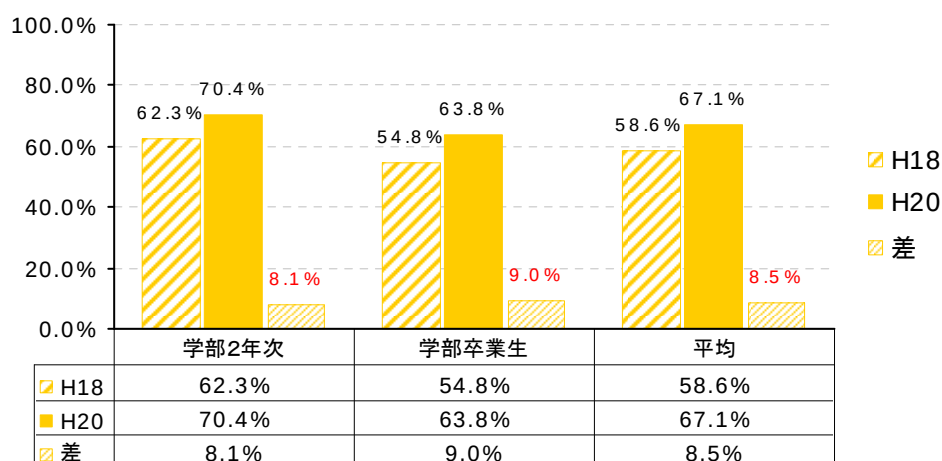
◆幅広い教養を身につけられる教育の提供（満足度）



(出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21. 9））

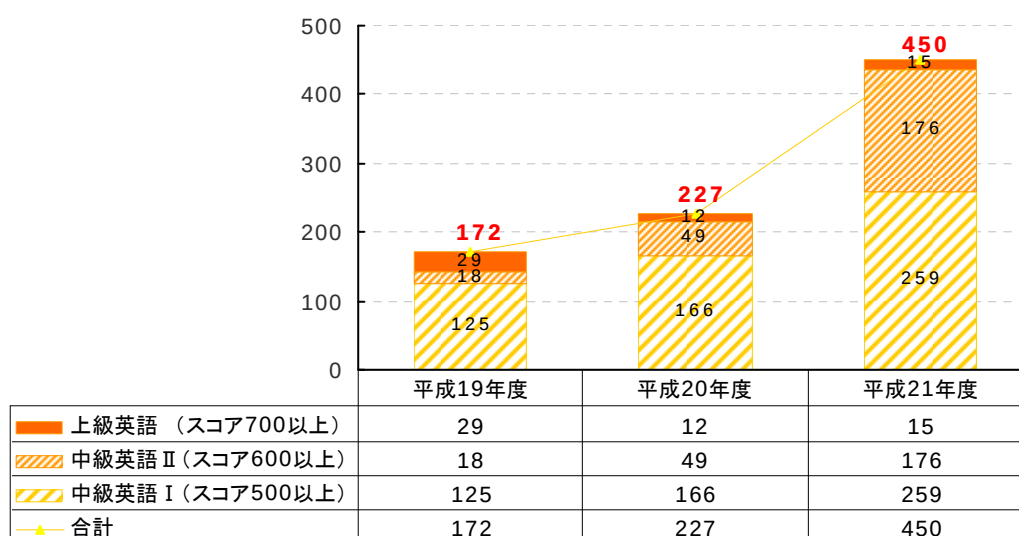
資料2－1：意識・満足度調査結果（語学系授業関連項目）

◆普遍教育の語学系授業（満足度）



(出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21. 9））

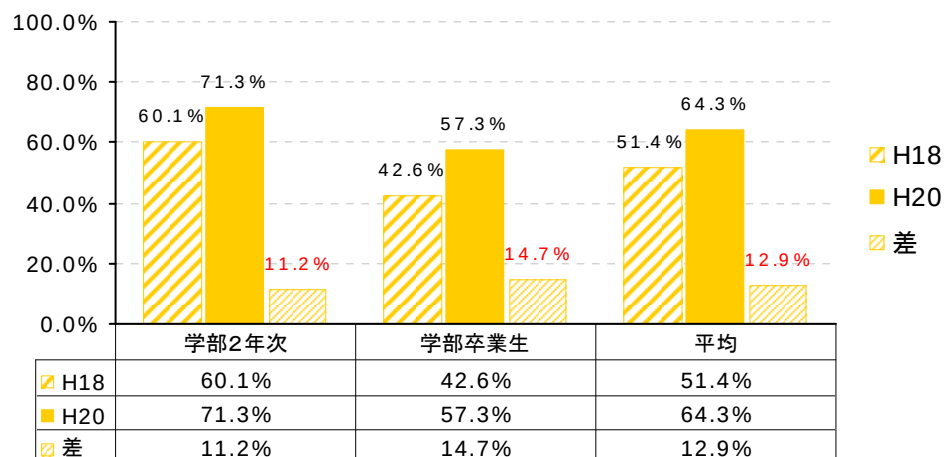
資料2－2：中級・上級英語履修者数



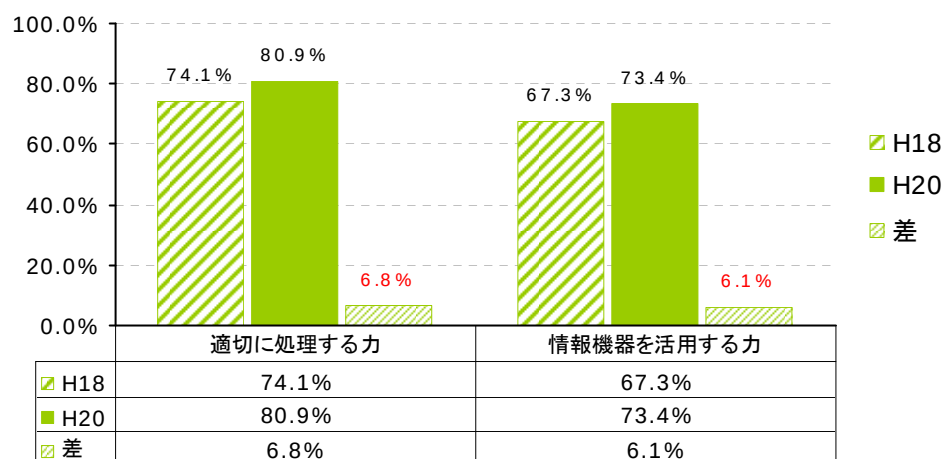
(出典：事務局データ)

資料4－1：意識・満足度調査結果（情報関連項目）

◆普遍教育の情報系授業（満足度）



◆情報関係処理能力（自己分析）



（出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21. 9））

資料6-1：普遍教育における学外機関における体験学習や奉仕活動等に係わる科目一覧

① アートをつくるⅠ（前期 水 2時限）、同Ⅱ（後期 集中）【平19年度前期→平20年度～通年】

概要	人と人々が作品を制作するという行為を通して、場と時間を共有する中からコミュニケーションを持つところまでをアートとして位置付ける。発信すべき内容の確認と地域における活動展開を具体化する。
目的・目標	人と人々が作品を制作するという行為を通して、場と時間を共有する中からコミュニケーションを持つところまでをアートとして位置付ける。 学校、介護施設、病院などを地域と捉えて、価値規準を再確認する場とし、その普及活動に相応しいアートコミュニケーションプログラムを企画し実践に結びつける。

② 文化をつくるA・B（通年 集中）【平19年度～開講】

概要	アートが持つ領域横断的で総合的な性格について学び、アートの持つ自由さとユニークな視点を学び、自らがアーティストなどと共にアート活動を実践する。
目的・目標	現代では、絵画や彫刻など制作自体が目的となる造形芸術的な従来の枠組みから、アート（美術）のあり方や意義が大きく変わりつつある。アートを核とした様々なプロジェクトが数多く行われるようになってきているが、そうした新しい可能性に注目し、美術館やNPOなどと連携しながら主体的に活動できるようになる。アートや教育を狭い文脈の中で捉えず、各自の関心から生じた動機をもとに、アートの手法を通して人々の日常に介入し、新たな目で世界を捉え直すきっかけを提供することを目指す。そうした活動を通し、自らの実践力やコミュニケーション能力を高める。また、アートの領域で行われつつある事象を知り経験することで、アートの回路を自らの内に持ち、各人の専門へ多様性を加味することを目指す。

③ カフェをつくるⅠ（前期 月 3時限）、同Ⅱ（後期 月 3時限）【平20年度～開講】

概要	学内にとどまらず、地域生活の現場もフィールドとし、出来ることをそれぞれが持ち寄り、他者と関わり、心地よい場をつくる方法と実践。
目的・目標	頭より身体を先に動かす。与えられる側から、発信する側として、楽しみを創造する。自己の持ち味を生かし、他者との豊かな関わりを育んでいく。大学と地域の橋渡しができるよう、知恵を集め行動する。

④ 地域ボランティアを考えるⅠ（前期 月 2時限）、同Ⅱ（後期 月 2時限）【平20年度～開講】

概要	地域住民、ジェフユナイテッド千葉と連携し、「豊かな日常」、「開かれた大学の実践」を目指して活動しながら、地域における市民のあり方としてのボランティア活動の意味を考える。
目的・目標	昨年は、千葉大学キャンパスで地域の子どもたち約100名のキャンプを実施しました。一つのイベントを企画、計画、そして実行するまでのプロセスを実際に行うことで、専門学問領域を超えたプロジェクト型の活動を学びます。昨年、実施したメンバー、地域の方々、ジェフのスタッフと共に、イベントのコンセプトづくりから資金づくり、組織、実施までを共に体験します。 「新しい授業をつくる 学生による授業提案 2008」の一つです。

⑤ 共生環境をつくる（通年 集中）【平21年度～開講】

概要	自然環境と人工環境が有機的に調和した共生環境の形成に向けた創造的発想と行動の実践を学びます。具体的な地域を対象として、フィールドワークを行い、地域の魅力や内在する課題などを発見し、より良い生活環境を形成するための方策を考えていきます。
目的・目標	自然環境と人工環境と人々の生活が有機的に調和した環境を共生環境という新しい概念でとらえ、さまざまな生活者が連携をはかりながら共生環境を形成するための視点と方法を学んでいきます。講義と演習を通して、地域住民の一員として環境保全や地域づくりに関わっていく素養を培うことを目的とします。

（出典：事務局データ）

資料6-2：普遍教育・授業アイデア公募事業公募要領

普遍教育センターでは学生の企画運営による授業に積極的に取り組んでいます。今年度は、授業アイデアを公募することにしました。来年度の普遍教育にあなたのアイデアが活かされるかもしれません。学生ならではのアイデアを待っています。

■応募資格

2008年10月20日現在、千葉大学に籍をおく学生。

＊グループでも、個人でも応募できます。

＊最優秀賞および優秀賞に選ばれた場合、発表会（3月予定）でプレゼンテーションを行ってもらいます。（ただし具体的な日程は調整します。）

■応募締切

2008年10月10日（金）

■表彰（予定）

●最優秀賞：1件

●優秀賞：2件

●佳作：2件

副賞 最優秀賞：図書券3万円

優秀賞：図書券2万円

佳作：図書券1万円

＊入賞5件に選ばれた場合は、10月31日（金）（大学祭期間）に最終審査のためのプレゼンテーションに参加してもらいます。グループ応募の場合は、1名が参加してください。）

＊最優秀賞、優秀賞で、来年度の授業として開講される場合は、授業の運営にもかかわってもらうこともあります。

■提出物

●下記の内容を、箇条書きでまとめてください。

①授業タイトル

②授業の目的、コンセプト

③学習到達目標

④15回の授業計画（できるだけ詳細に）

⑤履修上のメッセージ

■提出方法

応募フォーム【氏名（グループの場合は代表者）、所属学部・研究科学年、連絡先住所・電話番号・メールアドレス）を記載】を添えて、下記メールアドレスへ添付ファイルで送付してください。総合校舎A号館普遍教育課窓口に直接持参してもかまいません。

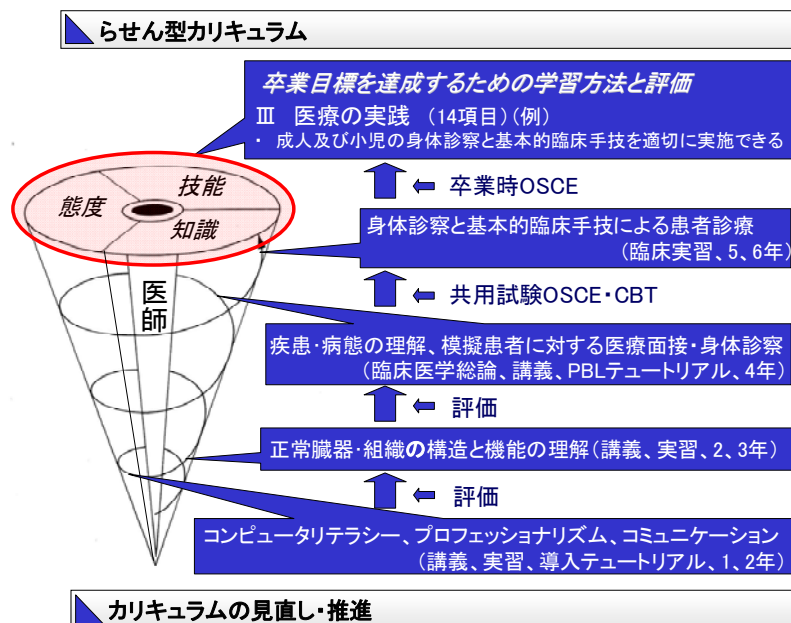
◆選定結果

	所 属	授 業 タ イ ト ル	
1	情報画像工学科 3年	ディズニーに学ぶ人生学～人生を豊かにする魔法とは～	最優秀賞
2	教育学部・小学校教員養成課程・社会科選修1年	「ディズニーランド学」ー夢と魔法の国から学ぶー	最優秀賞
3	文学部行動科学科2年	世界を変える社会起業家	入賞
4	教育学部スポーツ科学課程2年	ファッションの文化と未来	入賞
5	文学部史学科1年	アフリカを学ぶ（副題）アフリカ文化・歴史演習	入賞
6	工学部デザイン工学科意匠系4年	ブランドをつくる	
7	文学部国際言語文化学科1年	血液型とは何か	
8	工学部都市環境システム学科1年	夢をつかむ会計学	
9	工学部・電気電子工学科・1年	人生を成功に導く原則	
10	文学部日本文化学科 4年	サークルの新しい可能性「発見」!	
11	園芸学部 緑地・環境学科 3年	数学の最前線と未解決7大難問	
12	工学部（旧）情報画像工学科 4年	実践プログラミング演習	
13	法経学部法学科1年、文学部行動科学科1年	「食」を深める	
14	人文社会科学部公共研究専攻 1年	コミュニティと経済を考える	入賞
15	教育学部スポーツ科学課程3年	千葉大進化論～CHALLENGE DAYS～	優秀賞
16	文学部史学科1年	日本人を科学する	

（出典：「新しい授業をつくる 学生による授業提案 2008」公募要領）

資料 7-1：質の高い大学教育推進プログラム概要

①学習成果基盤型教育による医学教育の実質化（医学部）

**カリキュラムの見直し・推進**

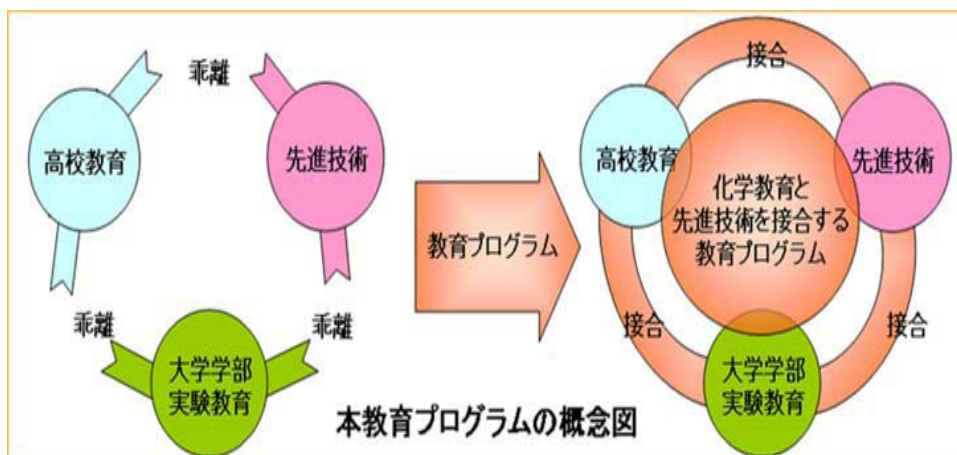
カリキュラムの見直し

- ・ 卒業目標マトリックスを利用して科目の目標の欠落や重複をチェックし、ある場合は、新たな目標の追加や修正を行う
- ・ 順次性のあるカリキュラム構成とするために、年次毎に能力を段階的に向上させるような目標を設定する
- ・ 修正された目標を達成できるような学習方法と学習成果を適正に評価できる評価法を導入する

カリキュラムの推進

- ・ OBE(Outcome-based Education、学習成果基盤型教育)についての情報共有、意見集約、カリキュラムの方針を決定する医学教育リトリートを開催する
- ・ OBE実施に必要な教員の教育能力向上のためにニーズ評価に基づいたFDを実施する

②高度ビジュアル化による化学実験教育（工学部）



基本原理から先端技術までの豊富な知識と高度な理解を安全に提供し、高大における化学教育と科学技術の乖離を接合することが出来る以下3つの教育計画を実施する。

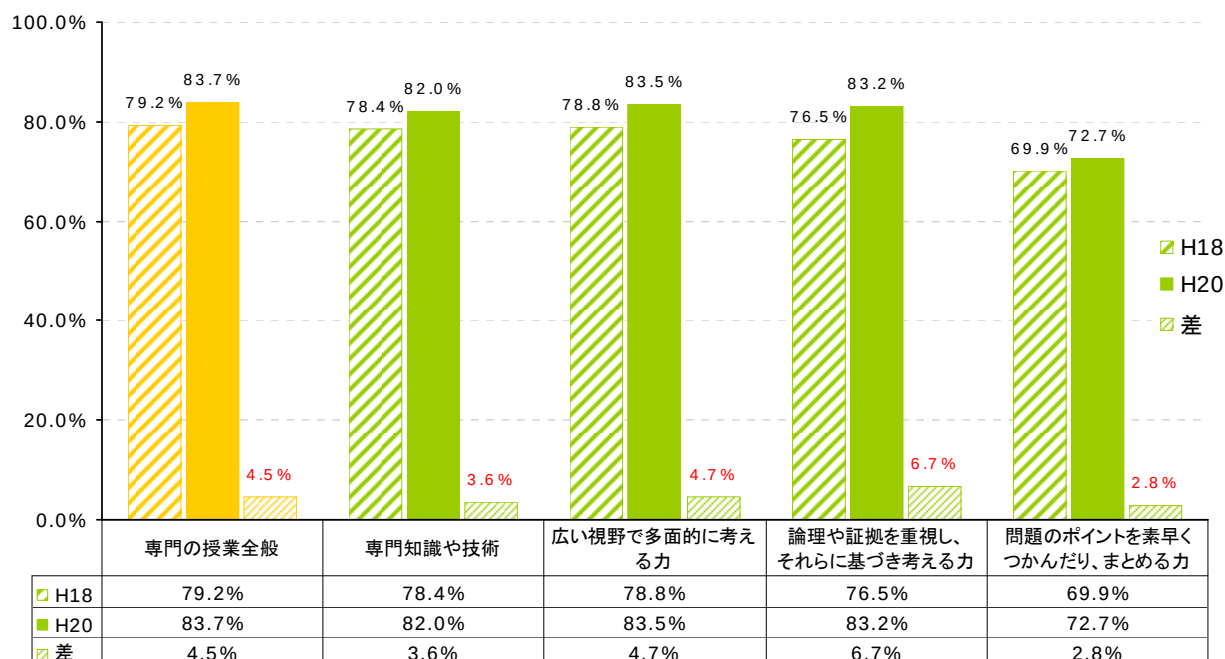
1. 化学実験を補う体験型ビジュアル教材によるきめ細かな教育－基本充実教育
2. 微量化学物質の分析実験とビジュアル教材による高度教育－応用展開教育
3. eラーニングによる分子デザイン教育－先進導入教育

(出典：質の高い大学教育推進プログラム)

「学習成果基盤型教育による医学教育の実質化」「高度ビジュアル化による化学実験教育」 HP)

資料 7-2 : 意識・満足度調査結果 (専門的知識、洞察力、探求力関連項目)

◆専門の授業全般 (満足度) 及び専門的知識等に関する能力 (自己分析)



(出典:「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書 (H21. 9))

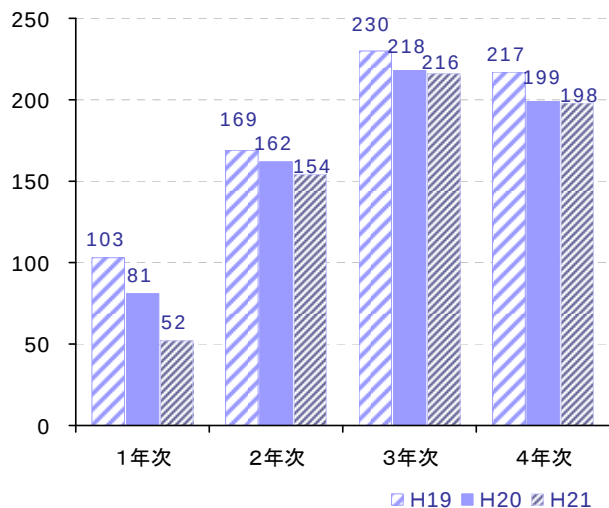
資料 10-1 : 単位未修得状況

	1年次			2年次			3年次			4年次		
	全体の学生数	15単位以下の学生数	%	全体の学生数	45単位以下の学生数	%	全体の学生数	80単位以下の学生数	%	全体の学生数	90単位以下の学生数	%
H19	2,502	103	4.1%	2,547	169	6.6%	2,519	230	9.1%	2,884	217	7.5%
H20	2,433	81	3.3%	2,495	162	6.5%	2,544	218	8.6%	2,887	199	6.9%
H21	2,441	52	2.1%	2,434	154	6.3%	2,491	216	8.7%	2,944	198	6.7%
H19⇄H21比		△ 51	△ 2.0%	-	△ 15	△ 0.3%	-	△ 14	△ 0.4%	-	△ 19	△ 0.8%

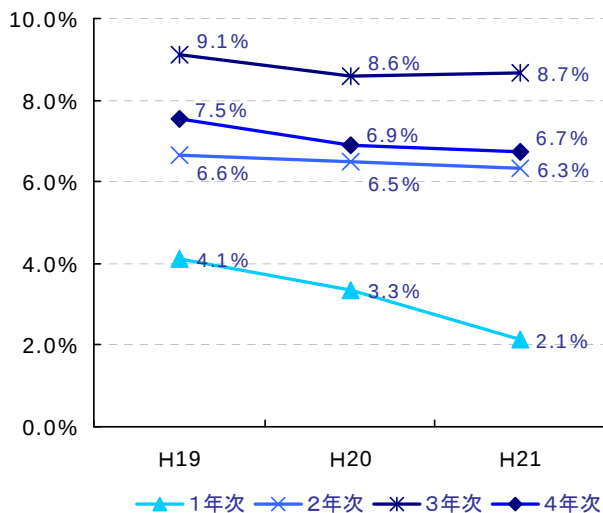
※各年度10月時点で調査

※当該年度編入学生及び医学部(3・4年次)については、調査対象外とする。

◆各基準単位以下の学生数



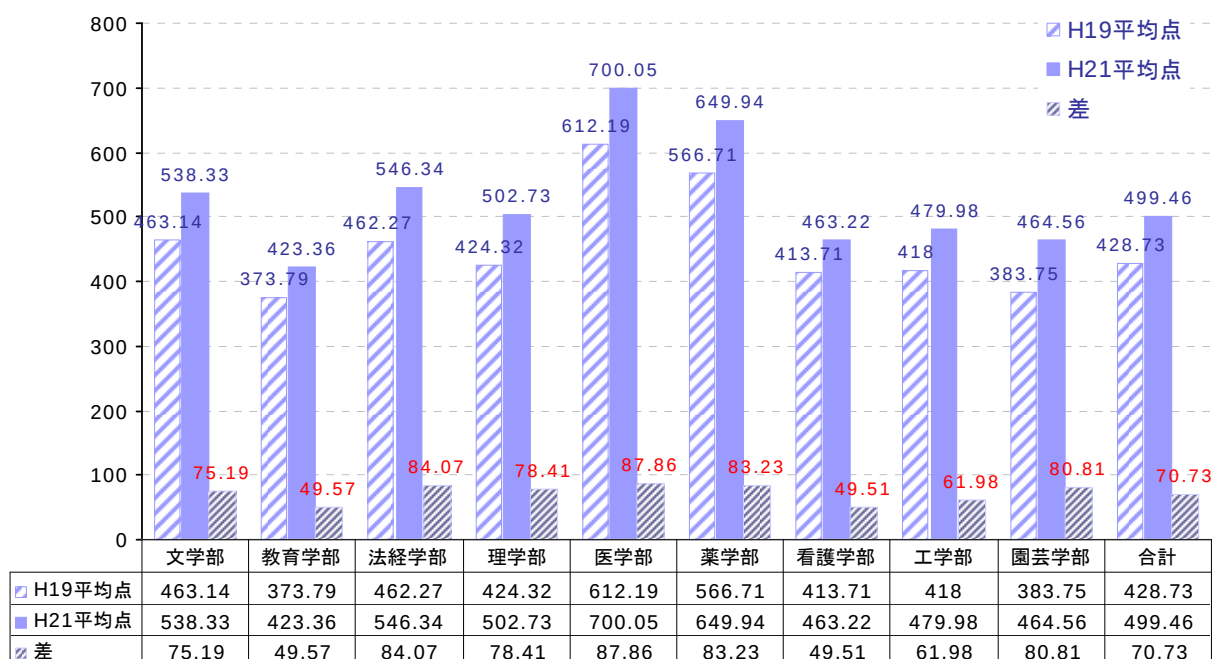
◆全体の学生数に対する割合



(出典:事務局データ)

資料 11-1 : 平成 21 年度 TOEIC-IP テスト実施状況

◆平成 21 年度 TOEIC-IP テスト実施状況 (各年度入学者対象)



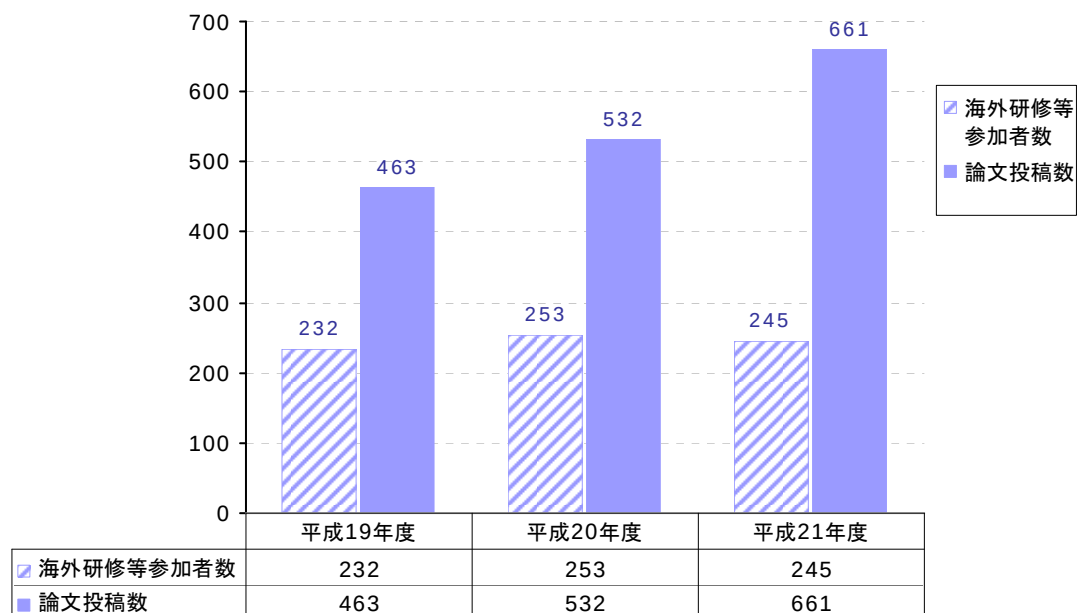
(出典：事務局データ)

資料 15-1 : 英語による授業科目一覧

研究科	H19	H20	H21	授業名
教育学研究科	1	2	1	「Child Education and Research Method」(H19) 「英語科教育学演習ⅢB」(H20)、「Research Method」(H20,21)
理学研究科	4	4	3	「環境リモートセンシングⅠA、ⅡA、ⅡB」、「地球物理学ⅤB」(H19) 「宇宙物理学Ⅰ」(H20) 「環境リモートセンシングⅠB、ⅡB」、「量子伝導物理学」(H20,21)
工学研究科	0	3	6	「デザイン・インタラクティブ1」、「デザイン・インタラクティブ2」、「デザイン・インタラクティブ3」(アジア人財専用)(H20,21) インターンシッププログラム(アジア人財専用)、海外アライアンスプログラム、産学連携デザインプロジェクトワーク(H21)
園芸学研究科	5	7	16	「国際化対応科目Ⅰ、Ⅱ」、「緑地保全生態等」、「国際園芸学演習」、「国際インターンシップ」(H19,20,21) 「植物保護論」、「ゲノム機能解析論」(H20,21) 「果樹機能制御学」、「緑化情報学」、「植物病学特論Ⅱ」、「植物ゲノム育種論」、「施設園芸学特論Ⅲ」、「国際ランドスケープ学特論Ⅰ」、「国際ランドスケープ学展開論Ⅰ」、「アジア環境園芸エキスパート演習・実習」、「日本園芸概論」(H21)
人文社会科学研究科	4	5	5	「英語表現法」、「英語ディスカッション」、「国際研究交流論A」、「国際研究交流論C」(H19,20,21)、「国際研究交流論B」(H20,21)
融合科学研究科	4	5	11	「国際・融合領域特別講義Ⅰ・Ⅱ」、「国際研究演習Ⅰ・Ⅱ」(H19,20,21) 「ナノイメージング特論」(H20,21) 「ナノエレクトロニクス数値解析入門」、「ナノ電子デバイス物理入門」、「極限表面科学特論」、「先端機能高分子」、「非線形光学入門」、「写真のメディア論」(H21)
医学薬学府	2	6	4	大学院GP「臨床英語演習」、「サステナブル環境健康科学」(H19) 「臨床英語演習」、「環境医学特論Ⅱ」(サステナブル健康科学)、大学院GP「臨床薬学のための英語」、大学院GP「総合英語演習」、「国際創薬科学特論」、「環境医学特論Ⅱ」(H20) 「生命情報科学」、「臨床アレルギー学特論」、大学院GP「臨床薬学英語」、「国際創薬科学特論Ⅱ」(H21)
合 計	20	32	46	

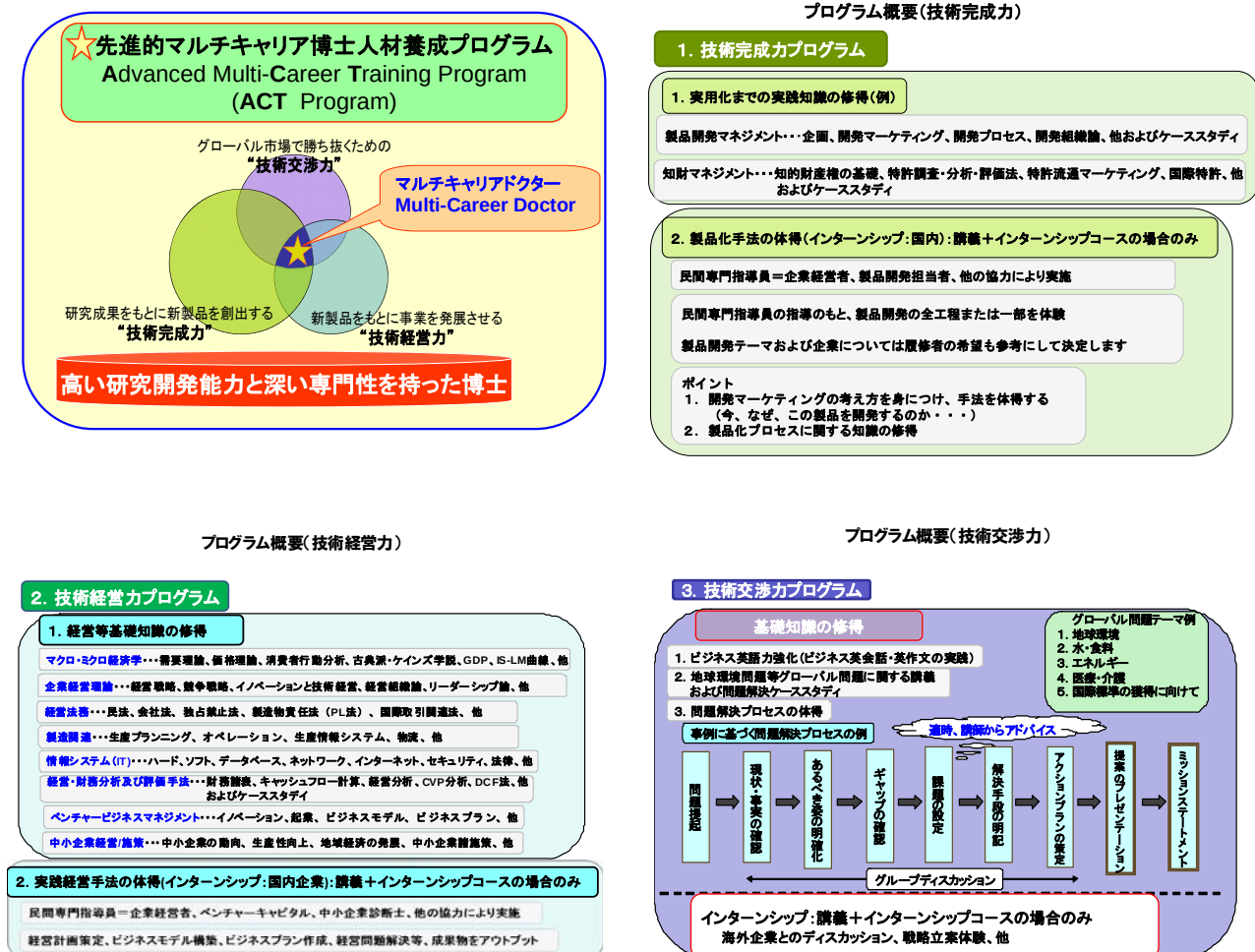
(出典：事務局データ)

資料 15－2：国際研究集会参加者数及び国際学術雑誌論文投稿数



(出典：事務局データ)

資料 17－1：先進的マルチキャリア博士人材養成プログラム概要



(出典：先進的マルチキャリア博士人材養成プログラム募集要項)

資料 19－1：新たな入学者受入れの方針

1 千葉大学の求める入学者

千葉大学は、総合大学として多様な研究・教育組織から構成されており、その知的環境を十分に利用して、問題解決能力を培い、創造的能力を育み、自発的な精神を養い、社会と文化の発展とともに、人類の平和と地球環境の保全に貢献する人材の養成をめざしています。

千葉大学は『つねに、より高きものをめざして』の理念のもと、次のような向上心あふれる学生の入学を求めています。

- ・ 現代社会を生きていく人間として欠くことのできない国際的、倫理的、知的な素養を備え、さらに向上させていこうとする熱意を持つ人
- ・ 本学での修学について強い好奇心、関心を持ち、問題について自発的に探求し、問題解決の能力を高めていこうとする意欲を持つ人
- ・ 本学入学後の修学に必要な基礎学力として十分な知識・実技能力を持つ人

2 入学者選抜の基本方針

千葉大学は、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般入試の他に特別入試として、A0 入試、推薦入試、理数大好き学生選抜、社会人入試、3 年次編入学、私費外国人留学生入試、帰国子女入試、さらに先進科学プログラム（飛び入学）学生選抜を実施しています。本学の入試では、大学入試センター試験、個別学力検査、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

3 千葉大学入学までに身に付けて欲しいこと

基礎学力としての十分な知識と共に、他の人との関わり合いの中でコミュニケーション能力を身につけてください。さらに広く社会に目を向け幅広い知識を養い、豊かな人間性と社会や学問に対する強い好奇心を高めてください。これらは、本学に入学してから知識・技能を生かす底力となるでしょう。

（出典：千葉大学入学者受入れの方針）

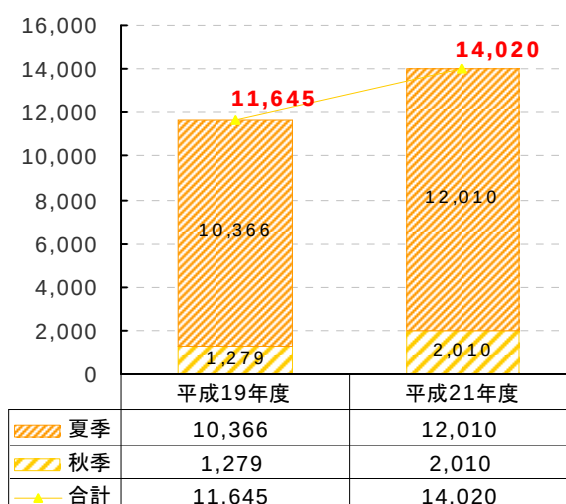
資料 20－1：オープンキャンパス参加状況

◆オープンキャンパス参加者数（夏季・秋季別）

	夏季	秋季		合計
		学部説明会	相談会	
文学部	1,554	267	59	1,880
教育学部	1,986	305	101	2,392
法経学部	1,519	176	41	1,736
理学部	994	108	21	1,123
医学部	775	57	2	834
薬学部	1,510	173	37	1,720
看護学部	726	48	18	792
工学部	2,252	208	50	2,510
園芸学部	694	84	16	794
その他	－	224	15	239
H21合計	12,010	1,650	360	14,020
対H19比較	1,644	530	201	2,375

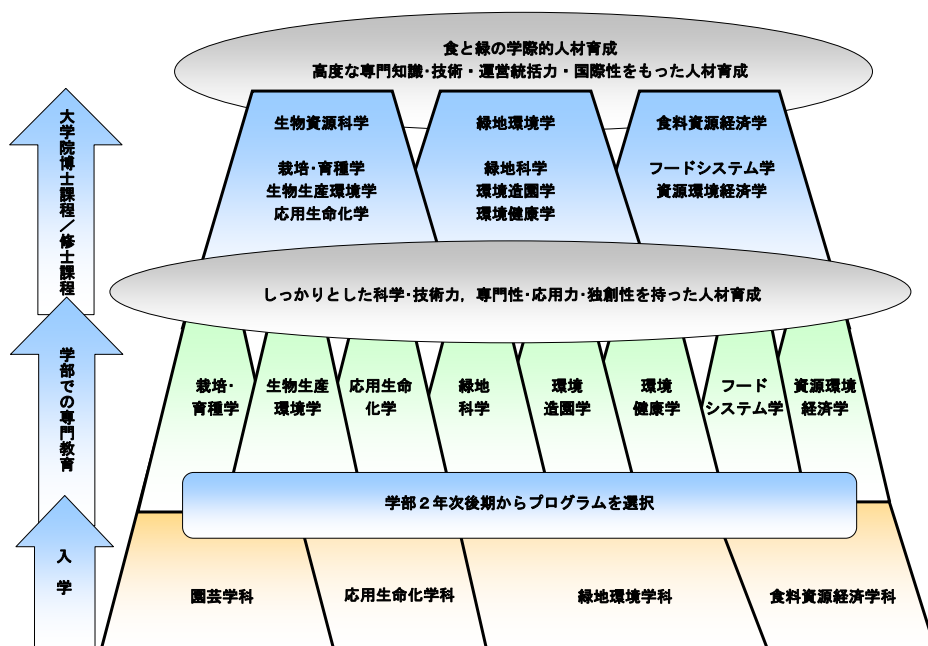
※その他：

学部説明会においては全体説明を、相談会においては入試課説明を指す。



（出典：事務局データ）

資料 23-1：園芸学部 4 学科 8 プログラム概要



【特徴】社会のニーズに柔軟に対応できる教育プログラムにより、「食」と「緑」と「健康」に関する最先端の科学を効率的に学べる。

- ・学部から修士課程、博士課程までそれぞれのプログラムの下で、深化した一貫教育を受けられる
- ・学部から修士課程までの連携教育カリキュラムにより高い技術力や専門知識を身に付け、就職力を高める

(出典：事務局データ)

資料 27-1：2010 年度シラバス作成の方針とガイドライン（改定）

方針

- ★今回の改定では、授業外学習の記述、授業計画における15回の授業回数の確保、達成目標と関連づけられた厳格な成績評価を重点項目とする。
- ★シラバスは、学生にとって学習の指針であり、教員にとって授業点検の重要な手がかりであることを念頭に置く。
- ★授業コード・科目コードは、できるだけ学習シーケンスに従って、分野・水準を示すベンチマーク方式に変更する。
- ★シラバスにおいては学習者の立場からわかりやすい記述に心がける。

改定シラバス作成ガイドライン（下線部が改定箇所）

受入人数

- ・受入人数を制限する必要がある場合には、理由を示してください。

連絡先（学内限定）

- ・専任教員は何かのかたちで連絡がつくようにしてください。
- ・非常勤講師は、「学務担当窓口を通して」、「〇〇先生を通して」のようにできるだけ間接的に連絡がつくようにしてください。

メールアドレス（学内限定）

- ・学生に公開してもよいメールアドレスを入力してください。
- ・学外向シラバスには表示しません。

オフィスアワー（学内限定）

- ・専任教員は「オフィスアワー」（かならず連絡がつく場所と時間）を示してください。
- ・アポイントメントの必要の有無も示してください。
- ・非常勤講師は記入の必要はありません。
- ・学外向シラバスには表示しません。

授業概要（必須）

- ・ どのような授業を行うのか、授業の趣旨を、教員を主語にして記述してください。
- ・ 学習者が理解できるようにわかりやすい言葉で、専門用語を多用しないでください。
- ・ カリキュラムとの関連も考慮してください。
- ・ 記述例：〇〇を講義する、〇〇を説明する、〇〇を紹介する、〇〇を明らかにするなど。

目的・目標（必須）

- ・ 一般目標と個別の到達目標を区別して記述してください。
- ・ 一般目標では、カリキュラムとの関連を考慮しつつ、学習者を主語にした授業目標を記述してください。
記述例：〇〇を知る、〇〇を理解する、〇〇を考察するなど。
- ・ 到達目標では、一般目標を達成するための個別の到達目標を（できれば観点別に整理して）記述してください。
観点例：①知識・理解、②思考・判断、③関心・意欲、④態度、⑤技能・表現
記述例：①〇〇を説明できる、〇〇を関係づける、②〇〇を分析できる、〇〇を指摘できる、③〇〇を討議できる、〇〇に寄与できる、④〇〇に参加できる、〇〇と協調できる、⑤〇〇を活用できる、〇〇を表現できるなど。
- ・ 到達目標は、授業期間内に達成可能な内容を記述してください。

授業計画・授業内容（必須）

- ・ 授業は15回を確保し、期末試験を実施する場合は15回の授業に含めないでください。
- ・ 授業外学習の指示について、できるだけ具体的に、必ず記述してください。
- ・ 授業外学習を促すために、授業資料や授業記録をWeb等で利用できるように配慮してください。
- ・ 授業内容については、週ごとに記述する場合と、全体で記述する場合がありますが、どちらでもかまいません。
しかし、全体で記述する場合も内容と項目を整理し、15回の授業の流れがわかるように記述してください。
- ・ 複数の教員が担当する授業では、授業内容と担当者がわかるように記述してください。
- ・ 必要に応じて、受講学生の質問や意見をどのように授業に反映するかも記述してください。

キーワード

- ・ 授業外学習を考慮し、学習者が検索しやすいキーワードを記入してください。

教科書・参考書

- ・ 学生が購入するのに適した価格であるかどうか判断してください。
- ・ 自分で教材を作成する場合は、そのことを示してください。
- ・ 教科書の場合は、買ったけれども使わなかったということのないよう気をつけてください。

評価方法・基準（必須）

- ・ レポート、小テスト、期末テスト等に関しては、それぞれの実施方法、評価方法等についてできるだけ詳細な情報を提供してください。
- ・ 成績評価に関して、「目的・目標」欄で示した（観点別の）到達目標を考慮し、どのような方法と基準で達成度を測定するかを記述してください。
- ・ できるだけ達成目標別に評価割合を示し、成績評価の透明性を確保してください。
- ・ 出席について記載する場合は、（備考欄等で）単位取得の前提条件として記述してください。

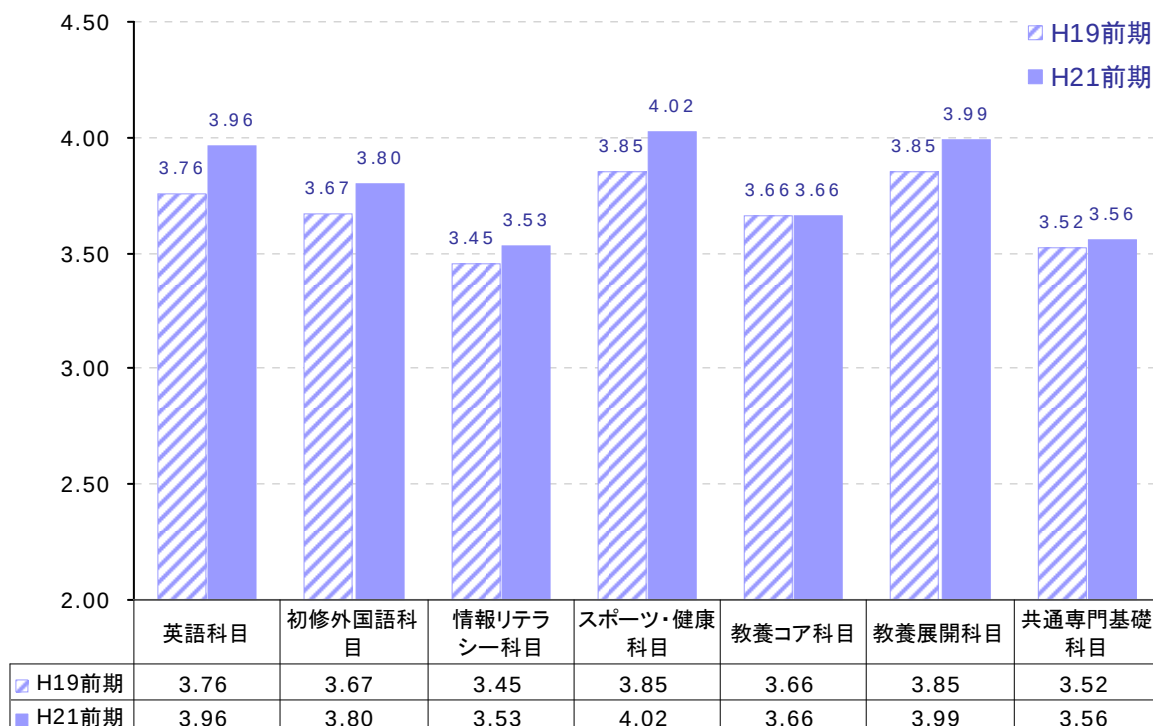
関連科目、履修要件、備考

- ・ 関連科目、履修要件、備考では、受講条件や注意事項について、具体的にわかりやすく記述してください。

（出典：2010年度シラバス作成の方針とガイドライン（改定））

資料27-2：授業評価アンケート結果（シラバス関連）

◆授業評価アンケート結果（5段階評価平均）



(出典：授業評価アンケート)

資料29-1：テーマゼミ開講状況

1. テーマゼミの要件

- ・ 受講数 15 名～20 名のクラス編成
- ・ 教養展開科目としての内容設定
- ・ アクティブ・ラーニング等の手法を採用し、学生・教員間、学生・学生間での双方向型授業を行う。

2. 平成 21 年度テーマゼミの開講科目

- ① 絵本作画（コアC 関連・前期 木 2 時限）
- ② 「平家物語」を読む（コアC 関連・前期 木 5 時限）
- ③ 日本文化を考える（コアC 関連・後期 木 3 時限）
- ④ 日本語文法再入門（コアC 関連・前期 金 5 時限）
- ⑤ ディズニーの世界（演習）（コアC 関連・後期 月 3 時限）
- ⑥ 歴史学セミナーA（コアD 関連・後期 水 3 時限）
- ⑦ 歴史学セミナーB（コアD 関連・後期 月 3 時限）
- ⑧ 現代日本の教育課程を考える（コアD 関連・後期 木 5 時限）
- ⑨ ドイツ地域社会論セミナーⅠ（コアD 関連・前期 月 4 時限）
- ⑩ ドイツ地域社会論セミナーⅡ（コアD 関連・後期 月 4 時限）
- ⑪ フランス地域社会論セミナーⅠ（コアD 関連・前期 火 2 時限）
- ⑫ フランス地域社会論セミナーⅡ（コアD 関連・後期 火 2 時限）
- ⑬ 比較社会思想史セミナーⅠ（コアD 関連・前期 月 4 時限）
- ⑭ 比較社会思想史セミナーⅡ（コアD 関連・後期 月 4 時限）
- ⑮ 近代日中の文化と思想を考える（国際性を高める・前期 水 2 時限）
- ⑯ 新しい授業をつくる（キャリアを育てる・前期 月 5 時限）
- ⑰ 化学分子デザイン（自然科学を学ぶ・後期 月 5 時限）

(出典：事務局データ)

資料30－1：FD推進企画室規程

平成20年5月21日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人千葉大学FD推進企画室(以下「企画室」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 企画室は、本学におけるファカルティ・ディベロプメント(大学設置基準及び大学院設置基準に基づき、学部及び大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修をいう。以下「FD」という。)の推進について検討・提言・実行することを目的とする。

(業務)

第3条 企画室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 本学におけるFDの全学的な方針の策定に関すること。
- 二 本学におけるFDの実施に関すること。
- 三 その他FD推進に関すること。

(組織)

第4条 企画室は、室長及び室員で組織する。

(室長)

第5条 室長は、FD担当副理事をもって充てる。

2 室長は、企画室の業務を総括する。

(室員)

第6条 室員は、次の者をもって充てる。

- 一 教育担当理事が指名する教員
- 二 学生部長
- 三 学生部教務課長
- 四 学生部教務課から1名
- 五 その他室長が必要と認める者

(室員以外の参画)

第7条 室長は、必要と認めるときは、室員以外の者を企画室に参画させることができる。

(事務)

第8条 企画室の事務は、学生部教務課において処理する。

(雑件)

第9条 この規程に定めるもののほか、企画室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成20年5月21日から施行する。

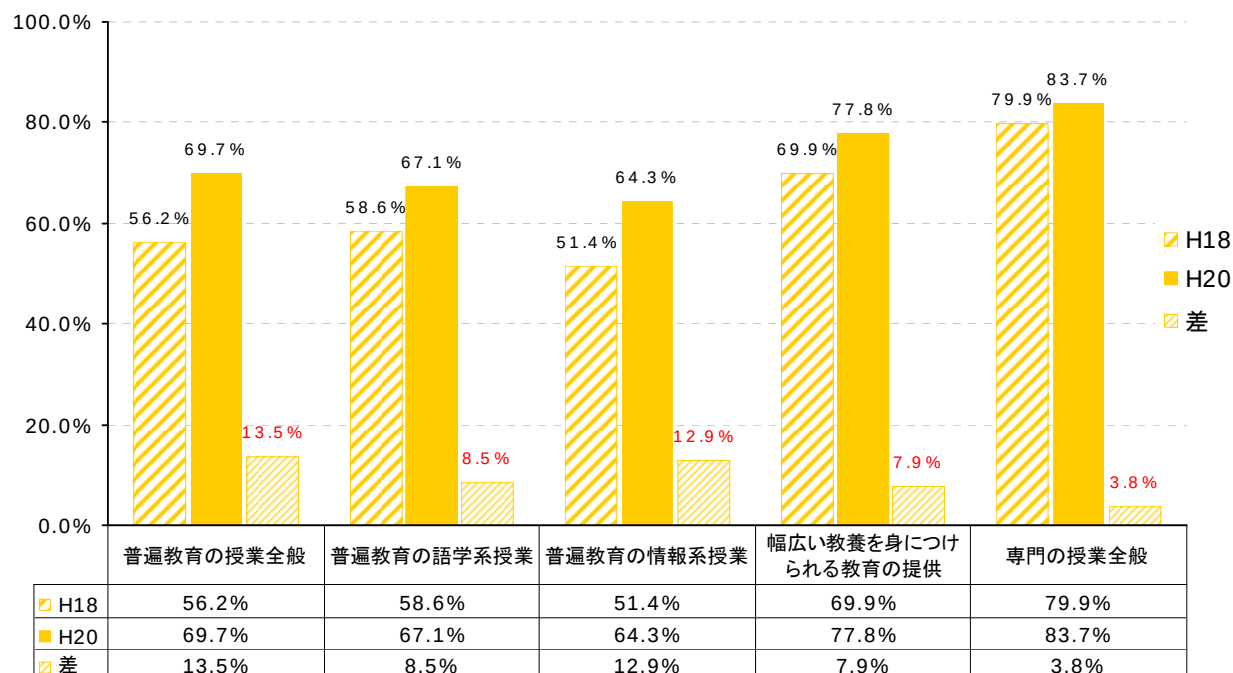
附 則

この規程は、平成21年7月1日から施行する。

(出典：国立大学法人千葉大学FD推進企画室規程)

資料30－2：意識・満足度調査結果（授業に対する満足度関連項目）

◆授業に対する満足度



(出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21. 9））

資料32－1：Moodle学生アンケート結果

1. Moodleは授業に役立ちましたか

- はい: 73 (87.95 %)
- いいえ: 10 (12.05 %)

2. 質問1で「はい」とお答えの方に質問します。特に役立った機能は何ですか（複数回答可）。

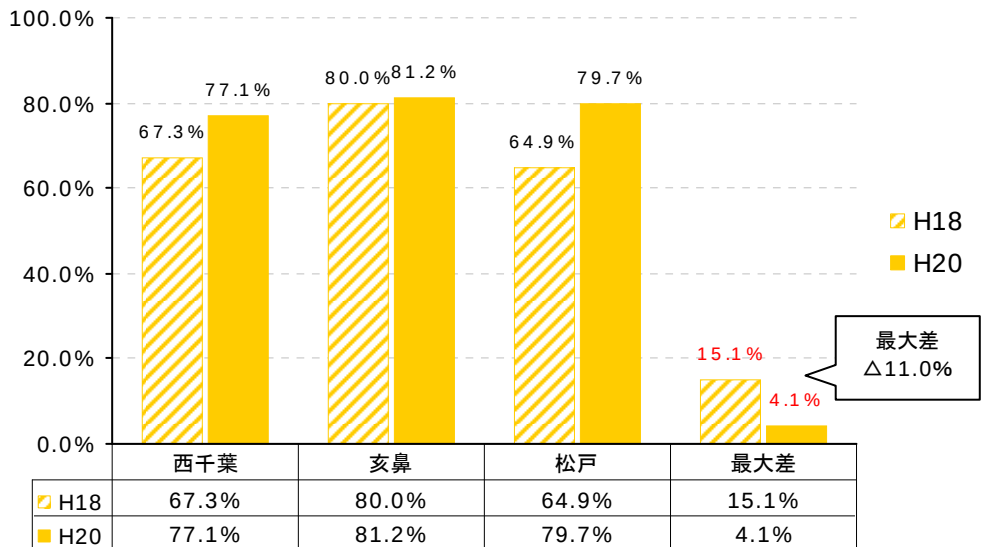
- 講義資料の閲覧: 64 (86.49 %)
- 小テストの実施: 8 (10.81 %)
- レポートの提出: 34 (45.95 %)
- アンケートの実施: 1 (1.35 %)
- フォーラムの利用: 4 (5.41 %)
- その他: 2 (2.70 %)

※その他…次回の授業内容の予告。休講情報。授業の音源up。過去問がアップロードされていて、自由に閲覧できて助かった。刑法Aの課題レポート提出や、刑法A、中国語5の講義用資料の事前配布により、予習が行えた点。

(出典：Moodle学生アンケート結果)

資料32－2：意識・満足度調査結果（教育環境関連項目）

◆学習・研究環境に対する満足度（キャンパス別）



（出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21. 9））

資料36－1：学術研究学生支援制度実施要項及び学術研究学生表彰に関する推薦・選考要項

○千葉大学学術研究学生支援制度実施要項

（目的）

第1 この要項は、千葉大学（以下「本学」という。）に在籍する学部学生で特筆に値する学問的業績を挙げ、かつ将来にわたり学問に真摯に取り組む意欲のある学生について、本学での研究活動を支援することに関し必要な事項を定めるものとする。

（支援対象者）

第2 次年度に本学に在籍若しくは本学の大学院に進学する予定の学部学生（学年を問わない。）とする。

（支援対象者数）

第3 原則として1年度あたり3件以内とする。

（支援の内容）

第4 奨学金として、1件あたり500,000円を支給する。
 2 該当者がいない場合には支給しない。
 3 他の奨学金を支給若しくは貸与されている者でも受給可能とする。また、本学が定める授業料免除制度により授業料が免除された者についても同様とする。

（選考方法及び選考時期）

第5 年度を通して別に定める「千葉大学学術研究学生表彰」を受賞した学生のなかから、学長が目的に適った学生を選考する。ただし、学長は必要に応じて役員（非常勤理事、監事を除く。）の意見を参考にすることができる。
 2 選考時期は3月とする。

（表彰の方法）

第6 原則として次年度の入学式に表彰（授与）式を併せて行う。なお、入学式に出席できない者は、他日、学長室において行う。

（事務）

第7 この要項に関する事務は、学生部教務課において処理する。

（雑則）

第8 この要項に定めるもののほか、本制度の実施に関し必要な事項については、学長が別に定める。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から実施する。

○千葉大学学術研究学生表彰に関する推薦・選考要項

1. 趣旨

この推薦・選考要項（以下「要項」という。）は、千葉大学学術研究学生支援制度実施要項第5における「千葉大学学術研究学生表彰」を行うにあたり、必要な事項を定めるものとする。

2. 表彰の基準

本学に在籍する学部学生で、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」に基づき、正課教育の一環として学問的業績を挙げたことが学会等で評価され、あるいは学術研究活動においてその成果が社会的に評価されているものを表彰の対象とする。

〔該当事例〕

(1) 研究活動

- ・権威あるジャーナルへの掲載
- ・学内外での発表などによる高い評価を受けているもの
- ・論壇、文壇等への投稿による高い反響や評価のあるもの

(2) 芸術的活動

- ・音楽コンクール、展覧会、展示会等において高い評価を受けているもの

(3) その他

- ・(1)、(2)以外で表彰に値すると認められるもの

3. 表彰候補者の推薦

学部長は、前項の基準に該当すると認められ、推薦する学生がいる場合には別紙様式により、学長に推薦することができる。

4. 被表彰者の決定及び表彰の方法

学長は、前項の推薦があった場合、教育担当理事及び研究担当理事とともにその学生と懇談し、その内容について発表を聴く。

学長は、表彰に値すると判断した場合、表彰状を授与する。

5. 事務

この要項に関する事務は、学生部教務課において行う。

6. その他

この要項に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項については、学長が別に定める。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から実施する。

（出典：千葉大学学術研究学生支援制度実施要項及び
千葉大学学術研究学生表彰に関する推薦・選考要項）

資料39－1：留学生戦略・推進企画室規程

平成20年11月19日
制定

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人千葉大学留学生戦略・推進企画室（以下「企画室」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（目的）

第2条 企画室は、本学における留学生の戦略的受入れ、派遣及び受入れの推進を図るための施策の策定及び推進について検討・提言・実行することを目的とする。

（業務）

第3条 企画室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 「留学生30万人計画」骨子（平成20年7月29日 文部科学省 外務省 法務省 厚生労働省 経済産業省 国土交

通省)を踏まえた企画、立案及び推進に関すること。

二 その他留学生に関する諸施策に関すること。

(組織)

第4条 企画室は、室長、副室長及び室員で組織する。

(室長)

第5条 室長は学長が指名する者をもって充て、副室長は室長が室員から指名する。

2 室長は、企画室の業務を総括する。

3 副室長は、室長を補佐する。

(室員)

第6条 室員は、次の者をもって充てる。

一 国際教育センター長

二 室長が指名する部局長 若干名

三 室長が指名する教員 若干名

四 企画総務部長

五 財務部長

六 学術国際部長

七 学生部長

八 施設環境部長

九 その他室長が必要と認める者

(室員以外の参画)

第7条 室長は、必要と認めるときは、室員以外の者を企画室に参画させることができる。

(事務)

第8条 企画室の事務は、学生部留学生課において処理する。

(雑件)

第9条 この規程に定めるもののほか、企画室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成20年11月19日から施行する。

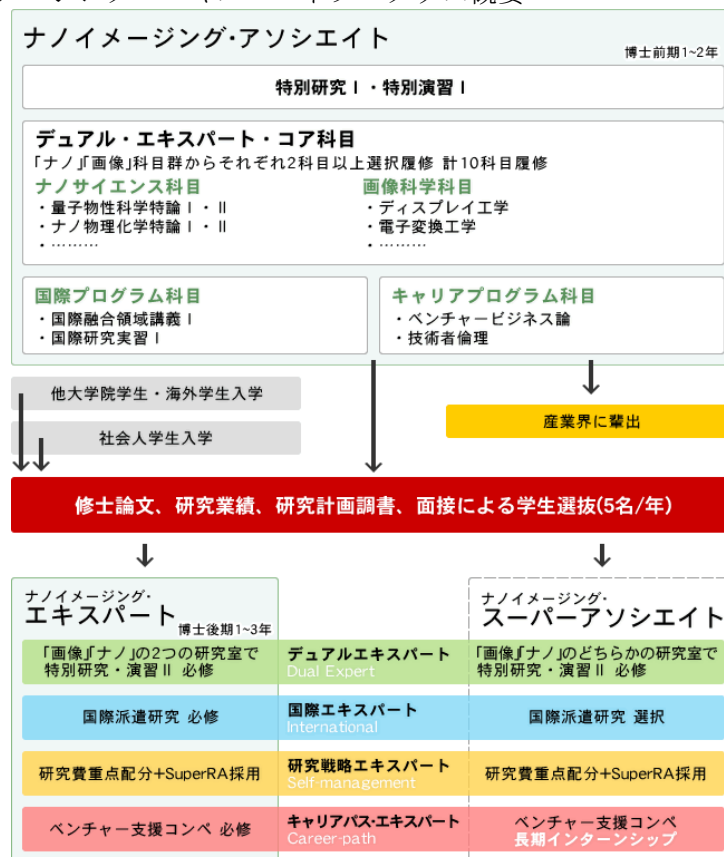
(出典：国立大学法人千葉大学留学生戦略・推進企画室規程)

資料39-2：留学生比率

	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	学生数	留学生数	留学生の割合	学生数	留学生数	留学生の割合	学生数	留学生数	留学生の割合
文学研究科	11	1	9.1%	4	1	25.0%	2	1	50.0%
教育学研究科	223	9	4.0%	218	8	3.7%	214	13	6.1%
社会科学研究科	11	0	0.0%	7	0	0.0%	2	0	0.0%
看護学研究科(修士)	27	0	0.0%	29	0	0.0%	30	0	0.0%
医学薬学府	296	5	1.7%	301	9	3.0%	260	6	2.3%
理学研究科	128	12	9.4%	248	25	10.1%	253	30	11.9%
看護学研究科(博士前期)	61	2	3.3%	53	1	1.9%	51	0	0.0%
工学研究科	368	40	10.9%	734	82	11.2%	780	91	11.7%
園芸学研究科	115	16	13.9%	217	23	10.6%	231	33	14.3%
人文社会科学研究科	150	36	24.0%	156	43	27.6%	158	47	29.7%
自然科学研究科	733	66	9.0%	54	7	13.0%	16	0	0.0%
融合科学研究科	133	9	6.8%	265	17	6.4%	296	24	8.1%
修士課程・博士課程(前期)合計	2,256	196	8.7%	2,286	216	9.4%	2,293	245	10.7%
理学研究科	31	7	22.6%	48	13	27.1%	73	21	28.8%
看護学研究科	44	1	2.3%	48	2	4.2%	48	3	6.3%
工学研究科	53	20	37.7%	101	37	36.6%	154	62	40.3%
園芸学研究科	35	15	42.9%	54	29	53.7%	91	47	51.6%
社会文化科学研究科	78	18	23.1%	58	13	22.4%	42	9	21.4%
人文社会科学研究科	44	14	31.8%	73	21	28.8%	83	23	27.7%
自然科学研究科	398	138	34.7%	262	92	35.1%	141	43	30.5%
融合科学研究科	19	7	36.8%	50	14	28.0%	65	19	29.2%
医学薬学府	62	11	17.7%	61	14	23.0%	55	12	21.8%
薬学研究科									
博士課程(後期)合計	764	231	30.2%	755	235	31.1%	752	239	31.8%
医学研究科									
医学薬学府	510	37	7.3%	499	35	7.0%	490	31	6.3%
博士課程(一貫)合計	510	37	7.3%	499	35	7.0%	490	31	6.3%
専門法務研究科	112	0	0.0%	105	0	0.0%	105	0	0.0%
専門職学位課程合計	112	0	0.0%	105	0	0.0%	105	0	0.0%
研究科合計	3,642	464	12.7%	3,645	486	13.3%	3,640	515	14.1%

(出典：大学情報データベース)

資料41-1：ナノイメージング・エキスパートプログラム概要



(出典：ナノイメージング・エキスパートプログラム HP)

資料41－2：科目等履修生規程新旧対照表

【改正理由】

本学の大学院の学生が科目等履修生として本学に入学する場合は、検定料及び入学料に加えて、授業料も不徴収とすること

新 旧 対 照 表

改正前	改正後
千葉大学科目等履修生規程 (趣旨) 第1条 この規程は、千葉大学学則第65条第3項の規定に基づき、科目等履修生に関し必要な事項を定める。 第2条・第3条(略) (出願手続) 第4条 科目等履修生として入学を志願する者は、次の各号に掲げる書類に、検定料を添えて、学部長を経て、学長に願出しなければならない。 一 入学願書 二 最終学校の卒業証明書又は卒業見込証明書 三 その他必要と認める書類 第5条～第7条(略) (検定料、入学料及び授業料) 第8条 検定料、入学料及び授業料(以下「授業料等」という。)の額及びその徴収方法は、国立大学法人千葉大学における授業料その他の費用に関する規程に定めるところによる。 2 前項の規定にかかわらず、本学大学院に在学する者(研究生、委託研究生、特別聴講学生及び特別研究学生を除く。)の検定料及び入学料は、徴収しない。 3 実験・実習等に要する実費については、別に負担させることができる。 4 科目等履修生には、授業料等の免除及び徴収猶予の取扱いはしない。 5 既納の授業料等は、返付しない。 第9条～第12条(略)	千葉大学科目等履修生規程 (趣旨) 第1条 (同左) 第2条・第3条(略) (出願手続) 第4条 (同左) 一 (同左) 二 (同左) 三 (同左) 2 <u>前項の規定にかかわらず、入学志願者が本学大学院の学生であるときは、前項第2号の書類の提出を要しない。</u> 第5条～第7条(略) (検定料、入学料及び授業料) 第8条 (同左) 2 前項の規定にかかわらず、本学大学院の学生が科目等履修生として入学する場合は、授業料等を徴収しない。 3 (同左) 4 (同左) 5 (同左) 第9条～第12条(略) <u>附 則</u> <u>この規程は、平成21年4月1日から施行し、平成21年度入学者から適用する。</u>

(出典：千葉大学科目等履修生規程の一部改正)

資料45－1：学位規程新旧対照表

【改正理由】

20. 3. 19付け文科省高等教育局長通知「大学における厳正な学位審査体制等の確立について」に基づき、本学の学位審査に係る透明性・客観性を確保するための体制を確立するため、学位論文の審査に他の研究科等の教員又は学外の教員等を審査委員に加えることができることとしたことに伴う所要の改正

新 旧 対 照 表

改正前	改正後
千葉大学学位規程 (目的) 第1条 この規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号)第13条の規定に基づき、千葉大学(以下「本学」という。)において授与する学位の論文審査及び試験の方法等学位に関し必要な事項を定めるものとする。 第2条～第6条 (略) (学位論文の提出) 第7条 第4条及び第5条第1項の学位授与に係る学位論文(大学院学則第32条に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。)は、在学期間中に研究科長(学府長を含む。以下同じ。)に提出するものとし、提出時期等は、研究科(学府を含む。以下同じ。)の定めるところによる。 2～4 (略) 第8条 (略) (学位論文の受理及び審査の付託) 第9条 第7条第1項の規定により研究科長が学位論文を受理したときは、教授会(教育学研究科及び看護学研究科にあっては研究科委員会。以下同じ。)にその審査を付託するものとする。 2 第7条第2項の規定により提出された博士論文を学長が受理したときは、教授会にその審査を付託するものとする。 (審査委員) 第10条 前条の規定により学位論文が審査に付されたときは、教授会は、当該研究科の教授のうちから3名以上の審査委員を選出し、当該学位論文の審査を委嘱する。ただし、必要があるときは、当該研究科の教授以外の教員を審査委員に選ぶことができる。 <u>2 教授会は、学位論文の審査に当たって必要があるときは、本学大学院の他の研究科の教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等の協力を得ることができる。</u> 第11条～第24条 (略) 別表第1～別表第5 (略)	千葉大学学位規程 (目的) 第1条 (同左) 第2条～第6条 (略) (学位論文の提出) 第7条 (同左) 2～4 (略) 第8条 (略) (学位論文の受理及び審査の付託) 第9条 (同左) 2 (同左) (審査委員) 第10条 (同左) <u>2 教授会は、学位論文の審査に当たって、必要があるときは、前項の審査委員のほか、本学大学院の他の研究科の教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員(以下「外部審査委員」という。)として加えることができる。</u> <u>3 前項の外部審査委員を2名以上加える必要があるときは、第1項の規定にかかわらず、当該研究科から選出の審査委員は、2名以上とすることができる。</u> (削除) 第11条～第24条 (略) <u>附 則</u> <u>この規程は、平成20年10月1日から施行する。</u> 別表第1～別表第5 (略)

(出典：千葉大学学位規程の一部改正)

資料48－1：普遍教育の運営における「全学出動体制」に関する申合せ

(目的)

- 1 この申合せは、普遍教育科目等（普遍教育センターによって統括される普遍教育科目と共通専門基礎科目をいう。）を提供する前提となっている「全学出動体制」について、全学の共通理解を得るとともに、普遍教育科目等の担当、並びに、普遍教育の企画・運営等への参加を促すことを目的とする。

(定義)

- 2 この申合せにおいて、「全学出動体制」とは、普遍教育の実施に係る方針であり、本学の専任教員（助手を除く。以下「各教員」という。）が普遍教育の重要性と全学的な協働の必要性を認識し、普遍教育の運営に対して何らかの責務を分担することをいう。なお、責務の分担とは、普遍教育科目等の担当のみならず、企画・運営への提案や参入、あるいは普遍教育科目等担当者に対する支援・配慮等を含む。

(専門教員集団への登録)

- 3 各教員は、普遍教育を全学で実施する組織である専門教員集団（別表）のいずれかに登録する（複数可）。また、普遍教育の企画・運営上の参考として「担当科目キーワード」を普遍教育センターに提供する。
普遍教育センターは、各教員に毎年定期的に登録内容を連絡し、見直しの機会を設けるとともに、運営上必要がある場合は、特定の専門教員集団への登録及びその変更を要請できる。なお、各教員も随時、専門教員集団への登録及びその変更を申し出ることができる。

(専門教員集団の役割)

- 4 普遍教育センター企画部、運営部は、普遍教育における授業計画基本案を作成し、普遍教育センター運営会議及び普遍教育委員会の議を経て授業計画を決定する。専門教員集団はそれを受け普遍教育科目等の開設及び授業担当教員の決定等について責任を負う。

(授業担当)

- 5 各教員は、所属教員集団の主任等から普遍教育科目等の授業担当に係る協力要請を受けた場合、極力これに応じる。
なお、授業担当に当たっては本学のエデュケーション目標『普遍的な教養、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成』を達成するために、普遍教育の重要性を再認識し、FD等を通して研鑽に努めるとともに、熱意と責任をもって遂行する。

(各部局の協力)

- 6 各部局長は、専任教員を任用するに際し、本申合せについて周知徹底を図る。
また、各部局は、普遍教育の円滑な実施に向け、授業担当教員の決定、ならびに教室・実験室・教育用機材等の使用などについて、普遍教育センターへの協力及び支援に努める。なお、普遍教育の企画・運営等に関して意見等がある場合、普遍教育センターに対して意見交換の機会を要求できる。

(授業担当への配慮)

- 7 各部局長は、所属教員の普遍教育科目等の担当状況の把握に努め、特定の教員が過度の負担を負うことのないよう配慮する。また、これらの科目の担当を、専門科目等と同様に教員評価に反映させる。

(授業担当ルール)

- 8 教養コア科目については、各専門教員集団が毎年必ず20コマを提供する。教養コア科目の授業担当は、専門教員集団主任・副主任が適切に決定する。
なお、教養コア科目を除く普遍教育科目等の授業担当については、普遍教育センターが専門教員集団及び各部局の意見を聞きながら、原則として3年毎に見直す。

(各部局の意見聴取)

- 9 普遍教育センターは、普遍教育の企画・運営等に係るセンターの活動について各部局の意見を聞く機会を定期的に設け、その結果を普遍教育の改善に生かすよう努める。

(情報提供)

- 10 普遍教育センターは、各部局に対して普遍教育科目等の担当状況に関する情報提供を行うとともに、普遍教育の教育力向上に向けたFD等の取組みの情報提供に努める。

(事務)

- 11 この申合せの実施に関する事務は、学生部普遍教育課が担当する。

附 則

この申合せは、平成22年4月1日から実施する。

別 表

普遍教育担当 専門教員集団一覧

番 号	集 団 名	
1	英語科目	
2	初修外国語科目	
3	スポーツ・健康科目	
4	情報リテラシー科目	
5	教 養 コ ア 科 目	コア A 論理と哲学
6		コア B こころと発達
7		コア C 芸術と文化
8		コア D 社会と歴史
9		コア E くらしと環境
10		コア F いのちと科学
11	共 通 専 門 基 礎 科 目	数学・統計学
12		物理学
13		化 学
14		生物学
15		地球科学

(出典：普遍教育の運営における「全学出動体制」に関する申合せ)

資料48-2：普遍教育マニュアル（増補版）（目次）

第1部 千葉大学のカリキュラム編成と普遍教育

I. 千葉大学における普遍教育

- 千葉大学の教育目標
- 千葉大学における学士課程カリキュラム
- 普遍教育科目の目的とそのカリキュラム
 - 普遍教育科目の目的とカリキュラムの特徴
 - 普遍教育科目の構成と内容

II. 普遍教育の実施・運営体制

- 普遍教育センターと全学出動体制
 - 普遍教育センターの設置趣旨と役割
 - 普遍教育の運営・実施の体制
 - 普遍における「全学出動体制」と全学の協力体制
- 専門教員集団
- 普遍教育の年間スケジュール概要

III. 学年、セメスター、授業期間・時間

- 学年
- セメスター
- 授業期間
- 授業時間

IV. 普遍教育科目の履修と履修基準

- 履修と単位
- 学部別履修基準と卒業要件
- 学生証番号について

V. 授業運営

- 担当の授業科目

2. シラバスとその作成

- シラバスの意義
- シラバスの作成の時期と方法
- シラバスの作成にあたっての留意事項

3. 既定の授業時間の確保と補講

4. 学生の受講手続き

- 通常の履修と受講許可
- 外国人留学生の履修
- 非正規学生の受け入れ
- 受講者名簿
- 「履修登録・成績入力システム」のマニュアル等

5. 授業方法

- 授業方法について
- アクティブラーニングについて

6. 成績評価

- 成績評価の区分
- GPA 制度について
- 成績報告
- 成績入力の期日
- 試験の実施について
- 追試験の取り扱い
- 成績報告票（追加・訂正用）用紙について
- 評点の変更について
- 学生からの成績の問い合わせについて
- 試験答案・レポート等の返却とコピー保存のお願い

7. 個人情報の保護

8. 休講・補講

9. 臨時休講

10. 学生の公欠
 (1) 該当する欠席事由
 (2) 公欠届けの学生の手続き
11. 授業実施にかかる諸事項
 (1) 講義室
 (2) 教材・試験問題等の印刷について
 (3) レポート等について
 (4) 授業に関する情報(授業科目に関する変更情報、休講・試験・補講情報等)について
 (5) 講義用の機器について
 (6) TA について
 (7) 授業資料のインターネットでの掲示・利用について
 ①教材ダウンロードシステム
 ②授業資料ナビゲータ
12. 後期科目の受講受け入れ
13. 「授業アンケート」について
- Ⅵ. 非常勤の先生への連絡事項(学外教員のみ)
 1. 出勤簿
 2. 非常勤講師控室
 3. 非常勤講師手当及び旅費の支給
 4. 本務の身分、現住所等の変更
- Ⅶ. その他
 1. 喫煙場所
 2. 普遍教育に関する各種問合せ先
- 第2部 教養コア科目と教養展開科目について
- Ⅰ. 教養コア科目の目的と特徴
 1. 教養コア科目の特徴
 (1) 教養コア科目の創設の背景
 (2) 教養コア科目の特徴
2. 各科目区分の目的と特徴
3. 教養コアの授業設計上の留意点
 ①授業設計上の留意点
 ②シラバスの例
 ③教養コア科目の成績について
- Ⅱ. 教養展開科目の目的と特徴
 1. 教養展開科目の特徴
 (1) 教養展開科目の目的
 (2) 教養展開科目の8領域
2. テーマゼミ科目
 (1) テーマゼミ科目の目的
 (2) テーマゼミ科目としての要件
 (3) 受講年次・受講学部等の指定等
- 参考資料等
 ・普遍教育等における TA 利用について(覚書)
 ・千葉大学個人情報管理規程・個人情報保護ガイドライン
 ・西千葉地区案内図
 ・総合校舎教室等配置図
 ・授業評価アンケート実施に関する申し合わせ
 ・授業評価アンケート
 ・公欠届
 ・JABEE(日本技術者教育認定機構)教育プログラムへの協力をお願い
 ・教養コア科目について
 ・教養コア科目の成績評価方法及び評価基準について
 ・普遍教育としての少人数セミナー開講の背景と概要
 ・履修登録・成績入力システムマニュアル シラバス入力用(簡易版)
 ・履修登録・成績入力システム教員マニュアル
 ・総合校舎「講義室」一覧

(出典：普遍教育マニュアル 授業担当教員用(増補版))

資料49-1：平成21年度「学生との懇談会」実施状況

部 局 等	場 所	実施月日	実施時間	学長 予定	参加時間	学生 参加人数
工学部(Aコース学生) 工学研究科	工学部第一会議室	6/1(月)	17:50~19:50	○	17:50~ 19:00	61名
看護学部(1,2年次生)	管理棟2階総合セミナー室 A	6/4(木)	11:00~12:00	○	11:00~ 12:00	9名
法経学部	法経学部棟2階法経第一会議室	6/17(水)	12:10~12:50	○	12:10~ 12:50	15名
看護学部(3,4年次編入生)	管理棟2階総合セミナー室 A	6/19(金)	15:00~16:00	代理	15:00~ 15:30	10名
文学部(第1回)(留学生含む)	法経学部棟2階法経第一会議室	6/25(木)	12:10~12:50	代理	12:10~ 12:50	25名前後
看護学研究科(修士課程)	管理棟2階会議室	6/27(土)	17時前後 (予定)	×		10名前後
人文社会科学研究科 社会文化科学研究科	総合校舎A号館5階専門法 務研究科大会議室	7/8(水)	16:10~17:30	○	16:10~ 17:30	10名前後
融合科学研究科	自然科学系総合研究棟1 3階セミナー室	7/9(木)	18:00~20:00	代理	18:00~ 19:00	15名前後
薬学部 医学薬学府(薬学系)	薬学部講堂	7/10(金)	14:30~16:00	代理	14:30~ 16:00	31名
園芸学部 園芸学研究科	事務棟2階第二会議室	7/14(火)	17:00~18:30	○	17:00~ 18:00	10名前後
看護学部(3,4年次生)	管理棟2階総合セミナー室 A	7/17(金)	16:10~17:10	×		10名前後
専門法務研究科	総合校舎A号館5階専門法 務研究科大会議室	9/14(月)	16:30~17:30	○	16:30~ 17:30	15名
普遍教育センター	総合校舎A号館2階201 講義室	10/20(火)	16:30~18:30	代理	16:30~ 18:30	33名
理学部 理学研究科	理学部1号館1階大講義室	10/22(木)	14:30~16:00	○	14:30~ 16:00	30名前後

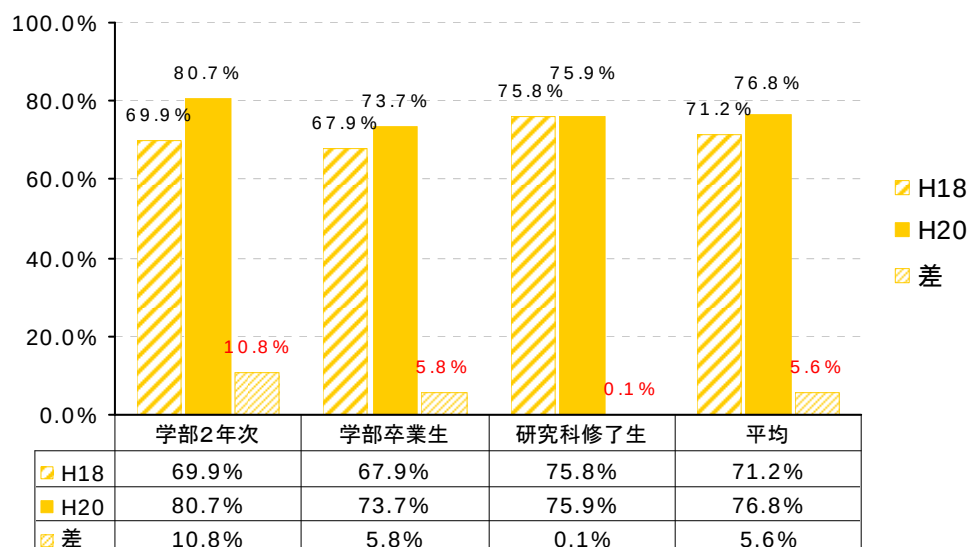
教育学部 教育学研究科	教育学部 1 号館 1 階大会議室	10/30(金)	15:00～16:30	代理	15:00～ 16:30	15 名前後
医学部 医学薬学府 (医学系)	医学部本館 3 階会議室	11/12(木)	17:00～19:00	○	17:00～ 19:00	20 名前後
文学部 (第 2 回) (留学生除く)	法経学部棟 2 階法経第一会議室	11/26(木)	12:10～13:00	○	12:10～ 13:00	10 名前後
文学部 (第 3 回) (留学生のみ)	総合校舎 A 号館 5 階専門法務研究科大会議室	12/3(木)	12:00～13:00	○	12:00～ 13:00	10 名前後

※実施回数：18回（学長参加10回、理事参加6回、欠席2回） 参加人数：339名（概数）

（出典：事務局データ）

資料49－2：意識・満足度調査結果（学習・研究環境関連項目）

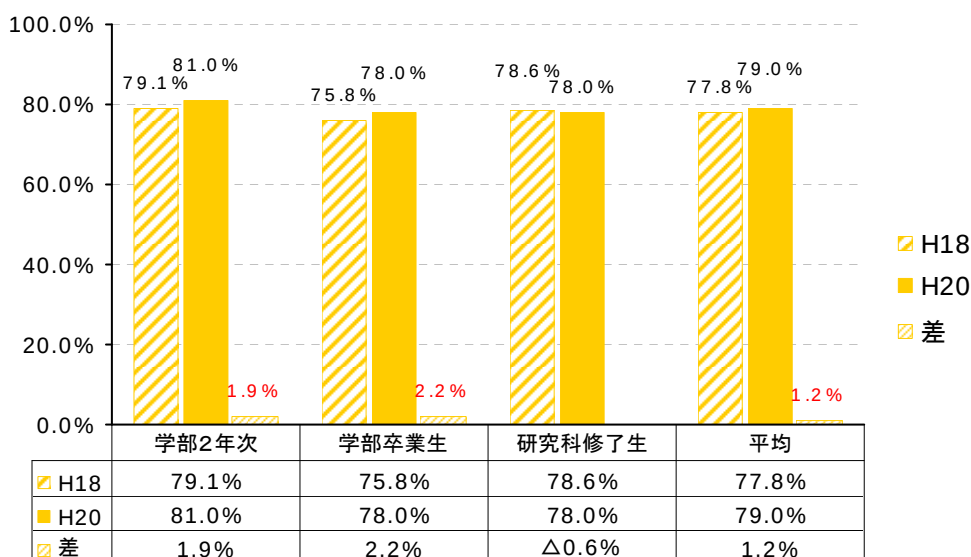
◆学習・研究環境に対する満足度



（出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21. 9））

資料53－1：意識・満足度調査結果（図書館関連項目）

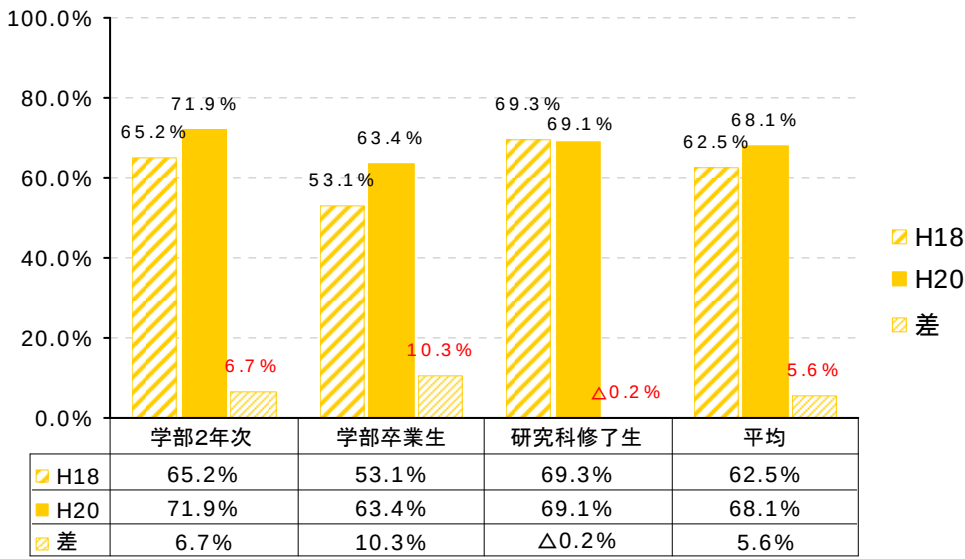
◆図書館に対する満足度



（出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21. 9））

資料57－1：意識・満足度調査結果（情報提供関連項目）

◆情報提供（電子ジャーナル、事務・学生生活情報、HPなど）に対する満足度



（出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21. 9））

資料59－1：大学基本データ分析における点検・評価項目

①点検・評価を実施する項目

- ・ 専任教員数
- ・ 年齢別本務教員数
- ・ 女性教員の比率
- ・ 外国人教員の比率
- ・ 入試状況（志願倍率、定員超過率等）及び収容定員に対する充足状況
- ・ 単位修得状況及び学生の成績分布
- ・ 休学者、退学者、留年者数
- ・ 資格取得状況
- ・ 卒業・修了者数及び就職率
- ・ TA・RA の雇用実績
- ・ 科学研究費補助金の申請・内定状況
- ・ 競争的外部資金（科研費を除く）の採択状況
- ・ 共同研究・受託研究の実施状況
- ・ 寄附金の受入状況
- ・ FD 研修会の実施状況
- ・ 授業改善に向けての取組状況
- ・ 自己点検・評価の実施状況
- ・ 卒業（修了）生や就職先等の関係者からの意見聴取等の実施状況

②点検のみ実施する項目

- ・ 転部・転科者数
- ・ 産業財産権・特許の出願・取得状況
- ・ 研究業績の発表状況
- ・ 学協会等からの受賞者数
- ・ 学協会等の役員、国及び地方公共団体等の審議会委員等への就任状況
- ・ メディア及び報道機関等に取り上げられた件数

（出典：事務局データ）

資料61-1：インセンティブ付与のための勤務成績の判定基準（教員）の運用ガイドライン

（1）評価の方法

- ① 部局長は、評議員・副学部長等の意見を参考に勤務成績優秀者を選考し、推薦する。
- ② 評議員・副学部長等が推薦対象者に含まれる場合は部局長が判断する。
- ③ 各機構及び企画室等における活動等は部局においてはその貢献度が把握しにくいいため、全学的な貢献を評価し該当者を選考できるよう、役員の推薦枠を設定する。

（2）具体的な評価項目等

- ① 教育
 - ・ 学生による授業評価が特に顕著であると評価された場合
 - ・ 千葉大学ベストティーチャー賞を受賞した場合
 - ・ 新しい教育方法を開発し、特に高い成果をあげた場合
 - ・ 新しい教材を開発し、特に高い成果をあげた場合
 - ・ 教育に対する業績が特に顕著で千葉大学の評価を高めた場合
 - ・ その他
- ② 研究
 - ・ 研究上の業績が認められ、特に権威のある学術上の表彰を受けた場合
 - ・ 専門誌等における掲載論文が特に高い評価を受けた場合
 - ・ 科学研究費補助金、大型の競争的外部資金（COE プログラム、大学院 GP 等）の獲得に特に貢献した場合
 - ・ 新しい診療方法を開発し、特に高い評価を受けた場合
 - ・ 研究に対する業績が特に顕著で千葉大学の評価を高めた場合
 - ・ その他
- ③ 管理運営・社会貢献
 - ・ 重要事項を審議する全学又は学内委員会において、その貢献が特に顕著であると評価された場合
 - ・ 国の機関等の重要事項を審議する審議会等において、その貢献が特に顕著であると評価された場合
 - ・ 社会貢献、地域貢献、国際交流等に対する貢献が特に顕著であった場合
 - ・ その他

（3）その他

- ① 教育・研究・その他（管理運営等）の割合は、それぞれ 20 パーセントを下回らないことを原則として、部局の状況を勘案した割合に基づき実施する。
- ② 教育に関する適切な評価を行なうため、シラバス、教務情報のデータを活用して、下記の事項を積極的に評価する。
 - ・ 学習効果向上のための尽力
 - ・ 新設科目、コア科目の主任
 - ・ 多年にわたり科目の開設が多い
 - ・ 入学試験の良質問題の作成
 - ・ 飛び入学学生に対する指導
 - ・ 教育に対する学生の評価が高い（アンケート結果等）
 - ・ 論文審査、進学・就職指導のための尽力
- ③ 昇給、勤勉手当の成績優良者として該当した者については、その選考理由を付して通知する。
- ④ 昇給と勤勉手当の推薦の判定基準に明確な差異を設けるべきか、今後継続して検討する。一例として、学内委員会の委員業務分担を推薦理由にする場合は、原則として勤勉手当に限ることとし、特に貢献が顕著・繁忙で意思決定が管理運営に重要な場合のみ、昇給区分の推薦とする等が考えられる。

（出典：インセンティブ付与のための勤務成績の判定基準（教員）の運用ガイドラインについて）

資料62-1：単位互換に関する協定書

千葉大学と城西国際大学との単位互換に関する協定書

千葉大学と城西国際大学は、相互の交流と協力を推進し、大学教育の活性化と充実を図りつつ、学生に多様な教育を提供することを目的とし、次により単位互換を行うことに合意する。

(対象学生)

第1条 本協定による単位互換制度の対象となる学生は、千葉大学、城西国際大学（以下「各大学」という。）に在学する学生とする。

(受入れ学生の呼称)

第2条 本協定に基づき、受け入れる学生は、特別聴講学生と称する。

(受入学生数)

第3条 各大学が受入れる特別聴講学生数は、授業に支障のない範囲で受入れ大学が決定する。

(履修方法等)

第4条 特別聴講学生の履修方法及び試験実施方法については、受入れ大学の規則の定めるところによる。

2 特別聴講学生の履修期間は1年以内とし、当該年度を越えないものとする。

3 特別聴講学生の受入れ時期は、原則として学年又は学期の始めとする。

(単位の授与等)

第5条 特別聴講学生が履修した授業科目の成績の評価及び単位の授与については、受入れ大学の定めるところによる。

2 特別聴講学生が履修した授業科目の単位の認定については、派遣大学の定めるところによる。

(授業料等の費用)

第6条 特別聴講学生の検定料、入学科及び授業料は徴収しない。

(運営組織)

第7条 本協定に基づく単位互換を円滑に実施するため、代表者による運営組織を設ける。

(実施要項)

第8条 この協定による単位互換を円滑に実施するため、実施要項を定める。

(改廃)

第9条 この協定の改廃は、学長間の協議による。

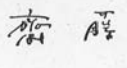
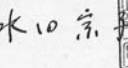
(実施期日)

第10条 この協定は、平成21年4月1日から実施する。

この協定の成立を証するため、本協定書2通を作成し、両大学長は署名押印の上、各1通保管する。

平成21年3月30日

千 葉 大 学 長 城 西 国 際 大 学 長

千葉大学と敬愛大学との単位互換に関する協定書

千葉大学と敬愛大学は、相互の交流と協力を推進し、大学教育の活性化と充実を図りつつ、学生に多様な教育を提供することを目的とし、次により単位互換を行うことに合意する。

(対象学生)

第1条 本協定による単位互換制度の対象となる学生は、千葉大学、敬愛大学（以下「各大学」という。）に在学する学生とする。

(受入れ学生の呼称)

第2条 本協定に基づき、受け入れる学生は、特別聴講学生と称する。

(受入学生数)

第3条 各大学が受入れる特別聴講学生数は、授業に支障のない範囲で受入れ大学が決定する。

(履修方法等)

第4条 特別聴講学生の履修方法及び試験実施方法については、受入れ大学の規則の定めるところによる。

2 特別聴講学生の履修期間は1年以内とし、当該年度を越えないものとする。

3 特別聴講学生の受入れ時期は、原則として学年又は学期の始めとする。

(単位の授与等)

第5条 特別聴講学生が履修した授業科目の成績の評価及び単位の授与については、受入れ大学の定めるところによる。

2 特別聴講学生が履修した授業科目の単位の認定については、派遣大学の定めるところによる。

(授業料等の費用)

第6条 特別聴講学生の検定料、入学科及び授業料は徴収しない。

(運営組織)

第7条 本協定に基づく単位互換を円滑に実施するため、代表者による運営組織を設ける。

(実施要項)

第8条 この協定による単位互換を円滑に実施するため、実施要項を定める。

(改廃)

第9条 この協定の改廃は、学長間の協議による。

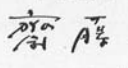
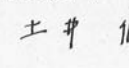
(実施期日)

第10条 この協定は、平成21年4月1日から実施する。

この協定の成立を証するため、本協定書2通を作成し、両大学長は署名押印の上、各1通保管する。

平成21年3月30日

千 葉 大 学 長 敬 愛 大 学 長

神田外語大学と千葉大学との単位互換に関する協定書

神田外語大学と千葉大学は、相互交流及び教育の充実を図ることを目的として、下記により単位互換を行うことに合意する。

実施学部等
この協定による単位互換の実施学部等は、別に定める実施要項による。

受入れ学生の呼称
この協定により受け入れる学生は、特別聴講学生と称する。

履修期間及び受入れ時期
(1)特別聴講学生の履修期間は1年以内とし、当該年度を越えないものとする。
(2)特別聴講学生の受入れ時期は、原則として学年又は学期の始めとする。

受入れ学生数
各大学が受入れる特別聴講学生数は、授業に支障のない範囲で、受入れ大学が決定する。

履修方法等
特別聴講学生の履修方法及び試験実施方法については、受入れ大学の規則の定めるところによる。

単位の授与等
(1)特別聴講学生が履修した授業科目の成績の評価及び単位の授与については、受入れ大学の定めるところによる。
(2)特別聴講学生が履修した授業科目の単位の認定については、派遣大学の定めるところによる。

検定料、入学科及び授業料
特別聴講学生の検定料、入学科及び授業料は徴収しない。

履修科目、単位数及び受入れ手続等
特別聴講学生が履修できる授業科目、単位数及び受入れ手続等については、別に定める実施要項による。

実施要項
この協定による単位互換を円滑に実施するため、各大学間で実施要項を定める。

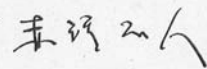
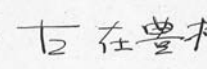
実施期日
この協定は、平成18年4月1日から実施するものとする。

協定の見直し等
(1)本協定の改廃は、学長間の協議による。
(2)本協定は、5年ごとに見直すものとする。

その他
この協定の成立を証するため、両大学長は記名押印の上、各1通を保有する。

平成18年3月30日

神 田 外 語 大 学 長 千 葉 大 学 長

(出典：各大学との単位互換に関する協定書)

資料63-1：教育・研究等に関する包括協定書

教育・研究・社会貢献活動に関する包括協定書

国立大学法人千葉大学と千葉工業大学は、教育・研究・社会貢献活動に関する包括的な連携について、以下のとおり協定する。

(目 的)

第1条 両大学は、教育・研究活動全般に係る交流及び連携を推進し、相互の教育・研究の進展と地域社会の発展に資することを目的として本包括協定を締結する。

(連携項目)

第2条 前条の目的を達成するため行う連携項目は次のとおりとする。

- (1) 教員、研究者及び学生の交流
- (2) 共同研究活動
- (3) 研究施設、設備の相互利用
- (4) 研究資料、刊行物及び研究情報の交換
- (5) 社会貢献活動
- (6) その他、両大学が合意した事項

2 前項の連携に必要な具体的事項に関しては、別途協議する。

(管理責任)

第3条 本連携の具体的な実施に当たっては、両大学の学長が管理責任を負う。

(秘密保持等)

第4条 両大学の秘密保持義務の扱い並びに本連携から生じる知的財産等の成果物の取扱い及び本連携から生じる学術情報の発表については、別途定める取決めに従うものとする。

(協 議)

第5条 本協定に定めのない事項については、両大学は誠実に協議のうえその都度決定する。

(有効期限)

第6条 本協定の有効期間は、締結の日から平成23年3月31日までとする。但し、両大学のいずれからも協定の終了または見直し等の申出がない場合、本協定は、更に1年間延長されるものとし、その後も同様の取扱いとする。

本協定の締結を証するため、協定書2通を作成し、各々1通を保有する。
なお、本協定の締結日以前に両大学が設置する学部・研究科等の間で締結した協定書等は、締結日以降も有効とする。

平成22年2月15日

千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

国立大学法人 千葉大学

学 長

齋藤 康

千葉県習志野市津田沼2-17-1

千葉工業大学

学 長

本岡 誠

教育・研究・社会貢献活動に関する包括協定書

国立大学法人千葉大学と独立行政法人国立高等専門学校機構木更津工業高等専門学校は、教育・研究・社会貢献活動に関する包括的な連携について、以下のとおり協定する。

(目 的)

第1条 両者は、教育・研究活動全般に係る連携を推進し、相互の教育・研究の進展と地域社会の発展に資することを目的として本包括協定を締結する。

(連携項目)

第2条 前条の目的を達成するため行う連携項目は次のとおりとする。

- (1) 教職員、研究者及び学生の交流
- (2) 共同研究
- (3) 研究施設、設備の相互利用
- (4) 研究資料、刊行物及び研究情報の交換
- (5) 社会貢献活動
- (6) その他、両者が合意した事項

2 前項の連携に必要な具体的事項に関しては、別途協議する。

(管理責任)

第3条 本連携の具体的な実施に当たっては、両者の長が管理責任を負う。

(秘密保持等)

第4条 両者の秘密保持義務の扱い並びに本連携から生じる知的財産等の成果物の取扱い及び本連携から生じる学術情報の発表については、別途定める取決めに従うものとする。

(協 議)

第5条 本協定に定めのない事項については、両者は誠実に協議のうえその都度決定する。

(有効期限)

第6条 本協定の有効期間は、締結の日から平成23年3月31日までとする。但し、両者のいずれからも協定の終了または見直し等の申出がない場合、本協定は、更に1年間延長されるものとし、その後も同様の取扱いとする。

本協定の締結を証するため、協定書2通を作成し、各々1通を保有する。
なお、本協定の締結日以前に両者が設置する学部・研究科等の間で締結した協定書等は、締結日以降も有効とする。

平成22年2月16日

千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

国立大学法人 千葉大学

学 長

齋藤 康

千葉県木更津市清見台東2-11-1

独立行政法人国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校

校 長

河上 恭

教育・研究・医療の協力に関する協定書 独立行政法人放射線医学総合研究所（以下「甲」という。）と国立大学法人千葉大学（以下「乙」という。）は、教育・研究・医療に関する包括的な連携・協力について、以下のとおり協定する。 （目的） 第1条 甲と乙は、双方の自主性を尊重しつつ、教育・研究及び医療活動の一層の充実を図るとともに、その成果の普及を促進することにより、我が国の学術及び科学技術の発展・継承に寄与する。 （協力事項） 第2条 前条の目的を達成するため行う本協力の内容は次のとおりとする。 (1) 教員、医師、研究者及び関連する職員の交流 (2) 学生、研究生等の交流 (3) 医療に関する交流 (4) 研究資料、刊行物及び研究情報の交換 (5) 研究施設・設備の相互利用 (6) 研究資源の相互利用 (7) 共同研究活動 (8) 研究成果物の管理活用 (9) その他甲及び乙が合意した事項 2 前項の協力に必要な具体的事項に関しては、別途協議する。 （協力管理責任） 第3条 本協力の内容の具体的な実施に当たっては、甲・乙それぞれ以下の者が管理責任を負う。 甲：独立行政法人 放射線医学総合研究所 理事長 乙：国立大学法人 千葉大学 学長 （秘密保持等） 第4条 甲及び乙の秘密保持義務の扱い並びに本協力から生じる知的財産等の成果物の取扱い及び本協力から生じる学術情報の発表については、別途定める取決めに従うものとする。 （疑義） 第5条 本協定に関して疑義が生じたとき、本協定の一部を変更しようとするとき、又は本協定に定めのない事項については、甲及び乙は誠実に協議のうえその都度決定する。 （有効期間） 第6条 本協定の有効期間は、締結の日から平成23年3月31日までとする。但し、両者に異議がない場合は、更に1年間延長されるものとし、その後も同様とする。 本協定の締結を証するため、協定書2通を作成し、甲乙各1通を保有する。 なお、本協定の締結日以前に甲と乙が設置する学部・研究科・附属病院等間で締結した協定書等は、締結日以降も有効とする。	平成22年 3月 5日 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 千葉県千葉市稲毛区穴川4丁目9番1号 甲 独立行政法人 放射線医学総合研究所 理事長 米倉 義晴 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 乙 国立大学法人 千葉大学 学長 齋藤 康 </td> </tr> </table>	千葉県千葉市稲毛区穴川4丁目9番1号 甲 独立行政法人 放射線医学総合研究所 理事長 米倉 義晴	千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 乙 国立大学法人 千葉大学 学長 齋藤 康
千葉県千葉市稲毛区穴川4丁目9番1号 甲 独立行政法人 放射線医学総合研究所 理事長 米倉 義晴	千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 乙 国立大学法人 千葉大学 学長 齋藤 康		

（出典：各機関との包括協定書）

資料78-1：学生総合支援センター概要

キャンパスライフ

豊かな学生生活のために

つどい・ふれあい・つくりあげるスペース

「ふれあいの環」学生総合支援センター



学生と教職員による話し合いの様子

開室日時：月～金 9:00～17:00

問い合わせ：学生部 学生支援課

「ふれあいの環」学生総合支援センター

043-290-2160 (内線4188)

fureainowa-gssc@office.chiba-u.jp

「ふれあいの環」学生総合支援センターでは、学生による学生支援活動やその情報発信を通じ、皆さんの修学生生活を総合的にサポートします。

また、学生の皆さんが様々な人々と関われるきっかけづくり(イベント等)も行っています。

もちろん、空き時間のくつろぎの場としての利用も可能です。お気軽にお越しください！

大学会館2F ライフセンター上



千葉大学にはこんな学生支援活動があります！

学生相談ピア・カウンセラー

学生相談ピア・カウンセラーは、同じ学生の立場から学生の相談にのったり、話を聴いたりすることを目的に、大学とともに活動している学生団体です。深刻な悩みなどがなくても、ちょっと話を聞いてほしいな、と思ったらお気軽に来ていただいてOKです☆また、学生相談ピア・カウンセラーの活動に携わりたいという方も大募集しています。特に資格は必要ありませんし、研修制度もちゃんとありますので、ぜひやってみたいという方もどうぞお越しください！

大学会館2階「ふれあいの環」学生総合支援センターで週に1回活動しています。ぜひ一度来てみてくださいね！

CISG(千葉大学国際学生会)

私達CISGは、留学生と交流することを目的とした「千葉大学国際教育センター」傘下の学生会です。主な活動として、通年のチャットルーム(交流会)や、4・10月の新入留学生の入寮手伝いとウェルカムパーティー(歓迎会)の企画運営、そして、6・12月のユニバーサルフェスティバルの企画運営を行っています。留学生と交流してみたい！という方は是非以下までご連絡を！メンバー一同、皆さんのご参加を待っています。CISGメールアドレス:cisg.communication@yahoo.co.jp

ノートテイク会

私たちノートテイク会は、聴覚障がい学生の授業をサポートしている学生団体です！手書きやPCを使って音を文字に換え、情報を伝えています。すべての講義をサポートするためには多くの学生の協力が必要です！新しいことを始めたい人、手書きやタイピングが得意な人…誰でも大歓迎しています。活動はアットホームで楽しく、空いた時間を使って始められます。

一緒に「普通」をサポートしてみませんか。 ☆ノートテイク会HP <http://ntkai.skr.jp/>

ボランティアサポート企画室

ボランティアサポート企画室では、ボランティアに興味がある学生にボランティア活動やボランティア団体を紹介しています。その人がやってみたい、興味がある分野のボランティアを、話を聞きながら一緒に見つけていきます。

週に1回、昼に「ふれあいの環」学生総合支援センターに常駐し、相談を受け付けています。

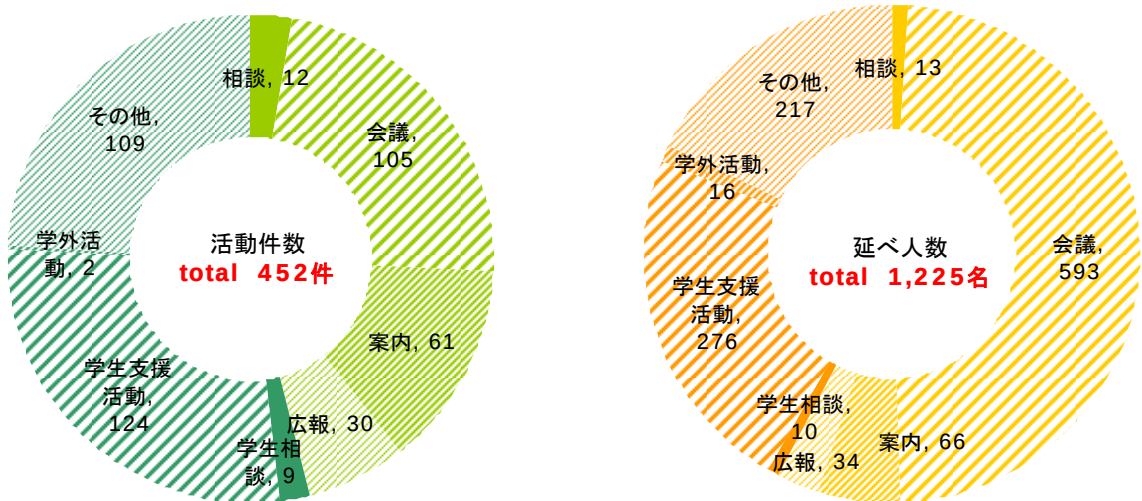
また、同センターにはボランティア関連の書籍やリーフレットを置きましたので、気軽に立ち寄って頂けたらと思います。

career port

私たちcareer portは、千葉大生のキャリアについて考え、就職活動をはじめとした様々なキャリア活動を支援していくという活動をしています。具体的な活動としては、就活生に向けた自己分析やグループディスカッション対策のセミナーの企画・運営や、career support bookの作成、また企業と学生の動向について情報交換をするということもしています。

千葉大生のキャリア活動について多角的な視点から考え、活動するサークルです。

◆学生総合支援センター利用・活動状況（平成21年度）



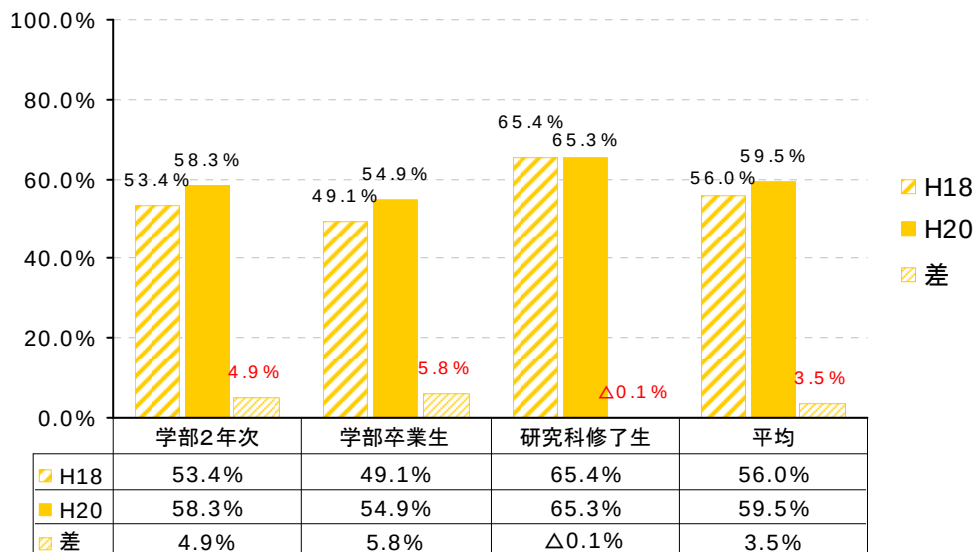
相談…コーディネーターに対して行われた相談件数
案内…学内案内及び窓口案内
学生相談…ピア・カウンセラーの学生相談活動における相談件数
学生支援活動…各学生支援団体に所属する学生の活動

会議…学生支援団体等による会議
広報…ボランティア募集やイベント告知ポスターの掲示等
学外活動…学外組織等との連携活動

（出典：事務局データ）

資料78－2：意識・満足度調査結果（自由に使えるスペース等関連項目）

◆大学で自由に使える学習スペースに対する満足度



（出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21. 9））

資料79-1：学内設計競技概要

第1回千葉大学学内設計競技

10号棟トイレのデザイン

工学部10号棟 1階4階女子トイレ及び女子男子トイレ入口部(2階3階男子トイレ内は1㎡3万円を上限に提案可、また、色彩、衛生器具などは女子トイレとの整合性を持つこと。)において千葉大学工学部建築学科及びデザイン工学科建築系、工学研究科建築・都市科学専攻の建築コースに在籍する女子学生を対象に競技設計を行い、最優秀案をもとに施設部と協議し改修を行うものとする。

応募提案条件

- ・女子トイレは標準工事にグレードアップ費を、1㎡6万円程度上限に計画すること。また、男子トイレは1㎡3万円程度上限に計画すること。
- ・可能な限りコスト削減及び省エネルギー化を図ること。
- ・従来の使い勝手を教員や学生にリサーチし、また、メンテナンスについても問題点や改善点を明確にし、本計画に反映すること。
- ・千葉大学の広報となる計画とすること。
- ・標準仕様部(男子トイレ)についても予算内でできる提案を行うこと。(色彩、衛生機器などの選定など)

コンペ最優秀賞の取り扱いについて

- ・優秀賞の内容は改修工事に反映し実施するものとする。
- ・最優秀賞の受賞者は、実施設計及び施工監理を行う。(応募者は左記が行う意欲がある者とする。)

資格

千葉大学工学部建築学科及びデザイン工学科建築系、工学研究科建築・都市科学専攻の建築に在籍する女子学生

応募形態

応募者は、必ずAカテゴリー(学部1年・2年)、Bカテゴリー(3年・4年)、Cカテゴリー(M1・M2)の中から1名以上の構成員で縦割り構成のグループとする。
なお、コンペ作業の男子学生の協力は制限しないものとする。

コンペ説明会

説明会 5月22日(金)15号棟110室pm1時分より

応募方法

①応募する者は、5月22日(金)コンペ説明会終了時に、構成員の学籍番号、氏名、代表者を決めグループ登録をすること。
②応募登録した者は、6月25日pm5時(時間厳守)まで下記の内容の資料を提出のこと

応募書類

A1用紙に表現をすること。(コンセプト、平面図、トイレ展開図は必ず表現をすること。その他は適宜判断)
横型(縮尺1:2.0)

提出先

工学部10号棟515室 担当:鈴木弘樹

審査方法

公開審査 6月26日 金曜日(横型、パワーポイントでプレゼンテーション)

審査(非公開)

審査委員長 栗生教授

審査員(五十音順)

安藤教授	
上野教授(キャンパス整備企画室)	外部
梶川部長(施設環境部長)	外部
川瀬教授	
中山教授	
野口教授(工学研究科長、工学部長)	
原田教授(専攻長)	
福川教授(学科長)	
森室長(両立支援企画室室長)	外部

事務局:鈴木弘樹
千葉大学大学院工学研究科 建築・都市科学専攻 助教
TEL/FAX 043-290-3162(直通)
内線3162
E-mail suz-hiro@faculty.chiba-u.jp

注意:上記の内容は変更する場合がある。

◆10号棟トイレコンペ(競技設計)実施と波及効果

1. 教育的効果

- ①生きた教材(材料の見本)の提供
- ②既存のトイレの標準仕様でない使用材料の耐久性のリサーチ
- ③設計や計画、設備、構造を講義や演習ではなく実際の計画・設計に携われる教育的効果が期待できる。最優秀案は、実施設計、施工監理まで体験させたい。(学内インターンシップ)
- ④コンペを行うことにより採用された学生やそれ以外の学生にも含め、今まで以上に設計や計画、設備、構造に興味を持ち、今後の学習意欲の向上が期待できる。

2. 学生などの福利厚生充実

10号棟においては、長年実現できなかったトイレの改善に対する女子学生の不満に対し、女子学生の要望を反映したトイレ改修の

実現が期待できる。また、工学説明会、入試などでも女子トイレがないことは問題視されていた。さらに、工学部事務棟が隣接するため事務職員、厚生施設としても機能する。(身障者wc、来訪者、育児中学生のためのベビーベットの設置)

3. 大学の広報としての効果

女子学生による女子学生のためのトイレのコンペ実施及び改修は、千葉大学内外から注目され広報としても非常に良い効果が期待できる。(工学説明会でのアピールポイントなど)→工学部の新聞広告として活用。

4. 就職支援

受賞者は、(特に女子学生は厳しい状況)自身の経歴として就職活動などに活用することができる。

(出典:事務局データ)

資料85－1：普遍教育TA研修会実施要項・アンケート結果（抜粋）

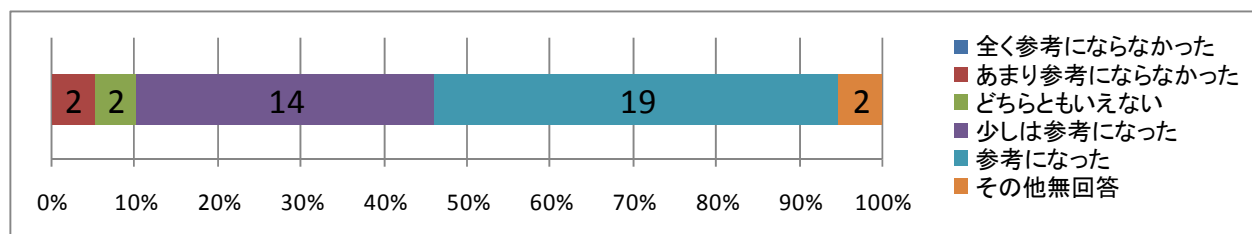
◆前期

日時： 2009年4月3日 10時30分～12時

場所：C-11 教室

アンケート回答総数：39件

問1 本日の研修会は、予定されている授業でのTAを担当するために参考になりましたか。



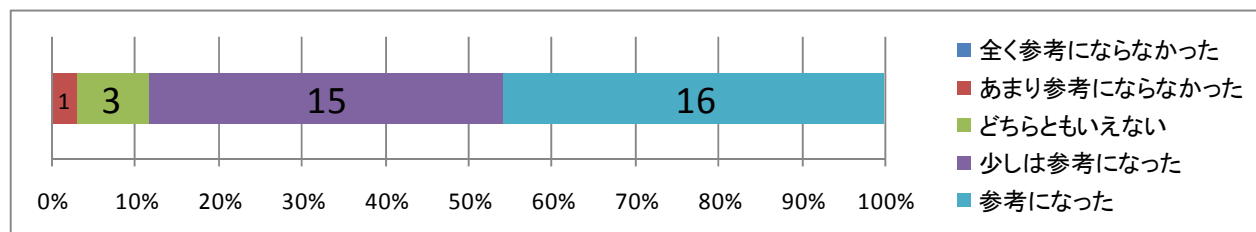
◆後期

日時： 2009年9月28日 14時30分～16時

場所：D-21 教室

アンケート回答総数：35件

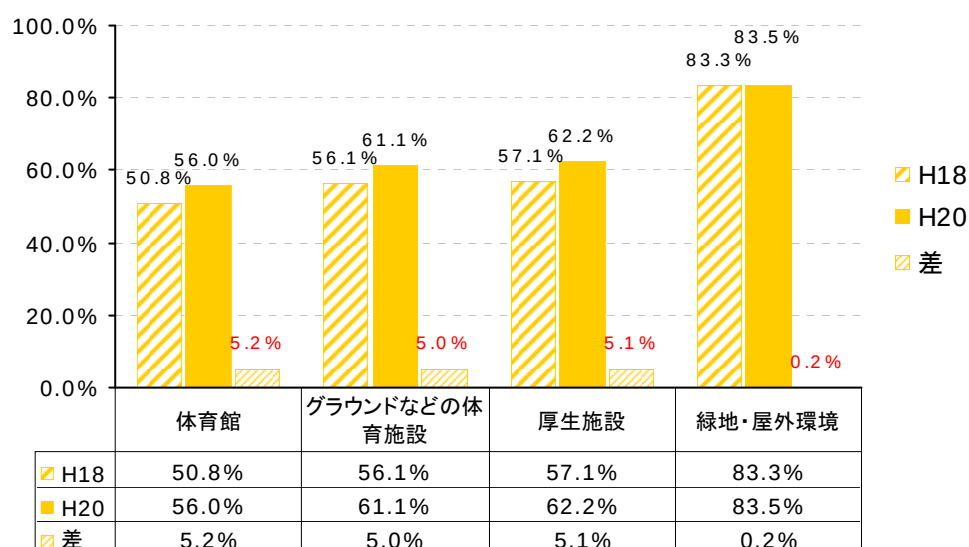
問1 本日の研修会は、予定されている授業でのTAを担当するために参考になりましたか。



(出典：「TA研修会」に関するアンケート集計結果)

資料89－1：意識・満足度調査結果（課外活動施設関連項目）

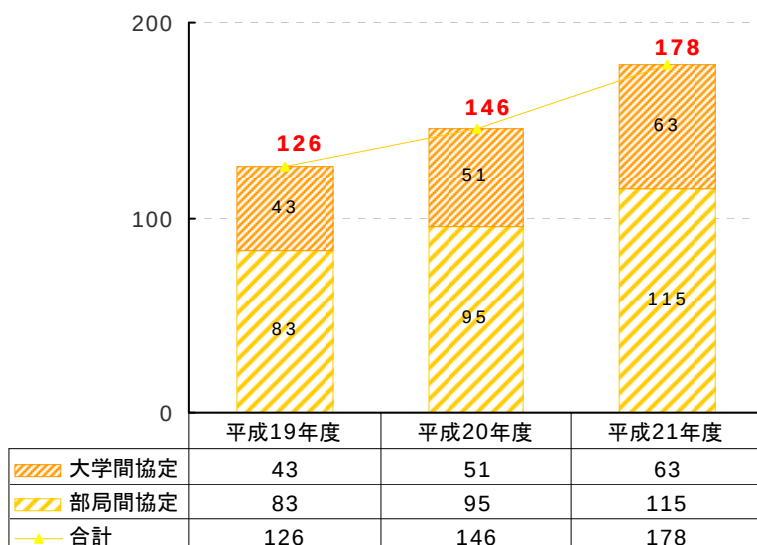
◆課外活動施設に対する満足度



(出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21.9）)

資料91-1：協定締結数及び平成20・21年度新規締結校一覧

◆協定締結数推移



◆大学間交流協定（新規20件（平成20年度：8件、平成21年度：12件）

国名（都市名）	大学名	締結年月日	交流内容	
			学術	学生
フランス（レンヌ）	レンヌ第一大学	2008. 5. 29	○	○
フィンランド（ヘルシンキ）	アールト大学芸術デザイン校	2008. 6. 30	○	
フランス（コンピエーニュ）	CNRS・コンピエーニュ工科大学	2008. 8. 8	○	○
台湾（台中市）	東海大学	2008. 9. 1	○	
スウェーデン（ウプサラ）	ウプサラ大学	2008. 10. 5	○	
タイ（バンコク）	マヒドン大学	2008. 10. 29	○	
台湾（台北市）	国立台湾大学	2008. 11. 5	○	
中国(北京市)	中央民族大学	2009. 2. 17	○	○ ◎
フィンランド（ヘルシンキ）	ラップランド大学	2009. 4. 22	○	○
中国(天津市)	南開大学	2009. 4. 30	○	
イギリス（ブリストル）	ブリストル大学	2009. 5. 18	○	
ロシア（モスクワ）	ロシア人文大学	2009. 7. 15	○	○
フランス（ルーアン）	ESIGELEC ルーアン工学学校	2009. 9. 21	○	○
イタリア(ミラノ)	ミラノ工科大学	2009. 10. 26	○	○
カンボジア（プノンペン）	王立プノンペン大学	2009. 12. 16	○	
フランス（ナント）	ナント大西洋デザイン大学	2010. 1. 4	○	○
フィンランド（ヘルシンキ）	アールト大学科学技術校	2010. 1. 8	○	
タイ（バンコク）	泰日工業大学	2010. 1. 18	○	○
フランス（パリ）	パリ・デザイン大学	2010. 2. 16	○	○
インドネシア(ボゴール)	ボゴール農業大学	2010. 3. 19	○	

※「◎」は学位取得型の交流

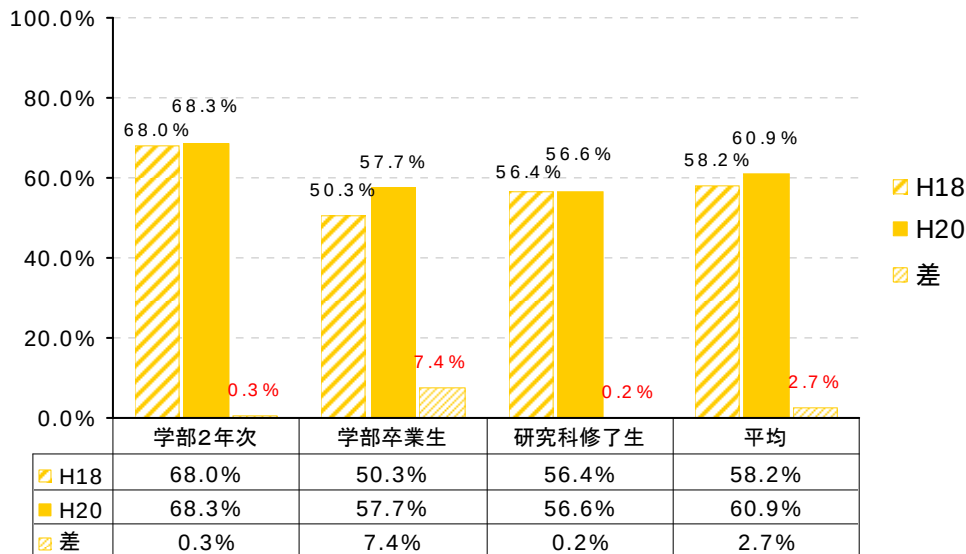
◆部局間交流協定（新規32件（平成20年度：12件、平成21年度：20件）

国名	大学名	締結年月日	交流内容	
			学術	学生
中国（瀋陽市）	遼寧省農業科学院	2008. 4. 18	○	
中国(泰安市)	山東農業大学	2008. 5. 12	○	○
中国（杭州市）	浙江工商大学日本文化研究所	2008. 7. 7	○	
台湾(台北市)	国立台湾大学公共衛生学院	2008. 10. 29	○	
インドネシア(ジャカルタ)	インドネシア気象・地球物理庁	2008. 11. 7	○	
ドイツ（ドレスデン）	ドレスデン応用科学大学	2008. 11. 27	○	○
タイ（ムアン）	タマサート大学シリントーン国際工学部	2008. 12. 22	○	
中国（貴陽市）	貴陽医学院基礎医学院	2009. 1. 20	○	
アメリカ (ミネアポリス、ミネソタ州)	ミネソタ大学公衆衛生大学院	2009. 1. 31	○	
中国（北京市）	中国電子科技大学 電子工学部，微細電子・固体電子工学部	2009. 2. 25	○	○
スイス（ベルン）	ベルン応用科学大学建築・建設・木材科学学部	2009. 3. 1	○	○
中国（上海市）	上海交通大学メディア・デザイン学院	2009. 3. 25		○
中国(天津市)	南開大学社会研究中心	2009. 5. 7	○	
フィリピン（マニラ）	サント・トマス大学理学部・大学院・自然科学研究センター	2009. 5. 7	○	
メキシコ（ハラパ）	ヴェラクルス大学建築学部	2009. 7. 28	○	○
韓国（金海市）	仁済大学環境産業医学教室・環境産業医学研究所	2009. 8. 7	○	
台湾（斗六市）	雲林科技大学デザイン学院	2009. 8. 21		○
台湾（嘉義県）	南華大学管理学院	2009. 8. 24	○	○
インドネシア（ジョグジャカルタ）	ガジャマダ大学理学部	2009. 9. 1	○	○
中国(長沙市)	湖南師範大学	2009. 9. 16	○	○
ドイツ（ビュルツブルグ）	ビュルツブルグ大学物理・天文研究科	2009. 9. 17	○	
チリ（サンティアゴ）	キリスト教人文主義アカデミア大学	2009. 10. 15	○	
中国（杭州市）	杭州師範大学理学院	2009. 10. 22	○	○
韓国（釜山市）	釜慶大学校工科学部	2009. 10. 23	○	○
オランダ（アイントホーフェン）	アイントホーフェン工科大学工業デザイン学部	2009. 10. 29	○	○
タイ（コンケン）	コンケン大学農学部	2009. 12. 3	○	○
中国（杭州市）	浙江大学理学院	2009. 12. 15	○	○
中国（上海）	上海交通大学 研究生院（船舶海洋建築工学院）	2010. 1. 14		○
台湾（新竹市）	国立交通大学理学院	2010. 1. 28	○	○
ベトナム(ハノイ)	ハノイ師範大学	2010. 2. 18	○	○
アメリカ（フィラデルフィア）	トーマスジェファーソン大学医学部	2010. 2. 20	○	
ドイツ（ベルリン）	フンボルト大学第一数学・自然科学部及び融合科学研究所	2010. 3. 15	○	

（出典：事務局データ）

資料91－2：意識・満足度調査結果（留学支援関連項目）

◆留学を支援するシステムに対する満足度



（出典：「千葉大学の教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書（H21.9））

資料96－1：特別RA実施要項

（目的）

第1 この要項は、千葉大学大学院博士後期課程（医学薬学府にあっては、4年博士課程又は後期3年博士課程。以下「大学院博士後期課程」という。）の学生に対して、研究業務の委嘱により経済的支援を実施することで、優秀な学生の確保及び若手研究者の研究能力の向上を図るため、必要な事項を定めるものである。

（名称）

第2 第1において研究業務に参画する学生の名称は、特別リサーチ・アシスタント（以下「特別RA」という。）とする。

（委嘱する研究業務）

第3 特別RAは第1条に掲げる目的のため、研究業務に従事するものとする。

2 特別RAに委嘱された学生は、採択された研究業務を適正に遂行しなければならない。なお、その遂行にあたっては、授業等に支障のない範囲で、別に定める時間以上を目安として行うものとする。

（委嘱対象者）

第4条 特別RAを委嘱することのできる者は、大学院博士後期課程に在学する学生とする。ただし、以下の学生は除くものとする。

- 一 標準修業年限を超えた者
- 二 授業料全額免除者
- 三 国費外国人留学生及び大学間協定により授業料不徴収の外国人留学生
- 四 社会人学生で授業料を会社等が負担している者
- 五 リサーチ・アシスタントで年額26万円以上の給与等の支給を受けている者
- 六 COE又は大学院GP等の経費から年額26万円以上の給与等の支給を受けている者
- 七 医学薬学府（4年博士課程）在籍者で医師免許状を有し、かつ一定額以上の収入がある者
- 八 日本学術振興会特別研究員
- 九 民間又は各種財団等から奨学金の支給を受けている者

（委嘱期間等）

第5 特別RAの委嘱期間は4月1日から翌年の3月31日までの1年間の範囲とする。

2 委嘱の開始日は月の初日とし、終了日は月の末日とする。

（委嘱手続き等）

第6 各部局において、特別RAを委嘱しようとする場合は、第4に定める者を対象に適切な範囲において、公募等により周知の上、特別リサーチ・アシスタント研究業務計画書（様式1）の提出によって審査を行う。

- 2 委嘱の可否及び委嘱しようとする研究業務の単価については、部局長が決定するものとする。
- 3 各部局においては、特別 RA に委嘱する者に対して、特別リサーチ・アシスタント研究業務委嘱通知書（様式 2）を交付するものとする。

（研究業務の経過報告及び支払）

- 第 7 特別 RA に委嘱された者は、毎月末に当該月における、特別リサーチ・アシスタント研究業務経過報告書（様式 3）を部局長に提出するものとする。
- 2 部局長は、特別リサーチ・アシスタント研究業務経過報告書により研究業務が計画通りに進捗していることを確認の上支払を行う。
- 3 各部局長は、研究業務が計画通りに進捗していない等の場合は、特別 RA に対し指導助言及び研究業務の取りやめを行うことができるものとする。

（研究業務終了報告書）

- 第 8 特別 RA に委嘱された者は、研究業務終了時に特別リサーチ・アシスタント研究業務終了報告書（様式 4）を部局長に提出するものとする。

（委嘱内容の変更等）

- 第 9 特別 RA に委嘱された者は、委嘱期間の途中で、研究業務計画に変更が生じた場合には、速やかに、特別リサーチ・アシスタント研究業務変更計画書（様式 5）を部局長に提出することとする。
- 2 各部局長は、前項の提出があった場合は、審査の上、特別リサーチ・アシスタント研究業務変更通知書（様式 2）又は特別リサーチ・アシスタント研究業務委嘱中止通知書（様式 6）を交付することとする。

（特別 RA の経費）

- 第 10 特別 RA を委嘱するための経費の配分は教育担当理事が行い、決定した配分額を各部局長に通知する。

（その他）

- 第 11 この要項に定めるもののほか、特別 RA の実施に関して必要な事項は別に定めるものとする。

附 則

この要項は、平成 20 年 7 月 18 日から実施する。

（出典：千葉大学特別リサーチ・アシスタント（特別 RA）実施要項）

資料99－1：本学からプレスリリースした主な研究概要

○新しい心筋分化誘導因子の解明について（医学部附属病院 小室一成教授 ほか）

【研究成果の概要】

重症心不全に対する治療法としては、現在のところ、心臓移植しかないが、心臓移植には、ドナーの絶対的不足を初め、多くの問題がある。そこで期待されているもののひとつが心臓再生治療である。とりわけ胚性幹細胞（ES 細胞）や人工多能性幹細胞（iPS 細胞）のような多種類の細胞に分化する能力を持つ幹細胞を心筋細胞に分化させ、それを機能が低下した心臓に移植する細胞移植療法は、最近大変注目されている。しかし心筋再生のための細胞移植療法を臨床応用するためにはいくつか解決すべき点がある。なかでも問題なのは、通常の方法で ES 細胞や iPS 細胞を心筋細胞に分化させても実際に心筋細胞になる割合は 1 %程度ときわめて少ないことである。細胞移植をする時に心筋以外の細胞や幹細胞が混在していると不整脈や腫瘍の原因となりえる。したがって細胞移植療法を実際に行うためには、幹細胞を高い効率で心筋細胞に分化させる技術の開発が必要になる。また最近、心臓には幹細胞が複数種存在し、心臓の傷害時には、その場に遊走し、心筋細胞や血管の細胞に分化することが分かってきた。このことは、僅かではあるが、哺乳類の心臓においても、傷害時には、再生が起こることを意味している。従って、この再性能を促進することができれば、細胞移植という方法を用いることなく、体内で心臓の再生を実現することが可能となる。そのためにも、心筋細胞分化を強力に促進する因子の同定が重要である。

私たちはこのような高効率心筋分化誘導法の開発のためには、幹細胞を心筋細胞に分化させる能力をもった分泌因子（心筋分化誘導因子）を見つけることが重要であると考えた。そこで心筋分化誘導因子を発見するためにいろいろな実験を行い、今回 IGFBP-4 とよばれる蛋白が強力な心筋分化誘導因子であることを明らかにした。実際に ES 細胞に IGFBP-4 を添加すると、心筋分化効率は 20 倍以上に増加した。さらに、IGFBP-4 の作用を抑制すると、ES 細胞では心筋細胞への分化がおこらず、また、カエルでは一度できた心臓が消失することがわかった。つまり、IGFBP-4 は単に心筋分化を促進するだけでなく、正常な心臓の形成に不可欠なきわめて重要な因子であることが明らかになった。IGFBP-4 は少なくとも 6 種類存在する IGF 結合蛋白質のひとつで、その名の通り IGF（インシュリン様増殖因子）とよばれるホルモンに結合しその作用を調節することが知られていた。しかしながら今回私たちが発見した IGFBP-4 による心筋分化誘導作用は IGF の作用とは全く関係なく、IGFBP-4 が発癌や動脈硬化の発症や老化に重要な WNT とよばれる因子の作用を調節することが心筋分化誘導に重要であることも明らかになった。

【掲載された学術誌】

・Nature (2008 年 6 月 4 日号)

‘IGFBP-4 is an inhibitor of canonical Wntsignalling required for cardiogenesis’

Zhu, W., Shiojima, I., Ito, Y., Li, Z., Ikeda, H., Yoshida, M., Naito, A.T., Nishi, J.I., Ueno, H., Umezawa, A., Minamino, T., Nagai, T., Kikuchi, A., Asashima, M., Komuro, I.

Nature 454:345-349, 2008

○オルガネラ由来パラサイトシグナルによる細胞増殖制御 (園芸学研究科 田中 寛教授 ほか)

【研究成果の概要】

真核細胞は 10 億年以上前に地球上に生まれ、そこで生じた唯一の始原細胞から、動物、植物、菌類など全ての真核生物に多様化したとされている。しかし、その最初の真核細胞がどのような生物であったかは殆ど理解されていない。我々は、真核細胞に根本的かつ共通なシステムの理解には、その初期進化、特に原核細胞による共生の注目が必須と考えて研究を進めてきた。誕生初期の真核細胞では、共生に由来するミトコンドリアや葉緑体が祖先バクテリアに近く、また細胞核による制御系も単純なものだったことだろう。このような視点から、我々は現存の真核細胞の中で最も原始的と考えられる、硫酸性温泉に生息する単細胞藻類シゾンに注目した。シゾン細胞には、核、ミトコンドリア、葉緑体が一箇ずつのみ含まれる。細胞増殖の際にはこれらが細胞内でまず 2 分裂し、細胞分裂の際の娘細胞に分配されていく。研究インフラの整備を含め、シゾンモデル真核細胞とした解析が進みつつある現状である。

細胞共生においては、それまで別個に制御されていた細胞周期が統合されることが必須である。では、共生に由来するオルガネラゲノムは、核ゲノムとどのような関係で複製・維持されているであろうか。シゾンを含む植物細胞では、光により細胞増殖の開始が誘導されるが、この際にはまずオルガネラゲノムの複製が起こり、その後に核ゲノム複製が起こる。この際の相互作用について解析を進めた結果、光が誘導するのはオルガネラゲノムの複製であること。オルガネラゲノムが複製すると、細胞内に特定のクロロフィル合成中間体が蓄積し、これが細胞内シグナルとして G1/S の移行に関わる CDK(サイクリン依存キナーゼ)を活性化することで核ゲノム複製が誘導されることを解明した。これは植物細胞の進化において、共生葉緑体が強力な光チェックポイントを課すことで、ゲノム複製を同調化(核増殖を支配)したことを意味している。共生と寄生は連続しているとの視点から、我々はこの新規シグナルを共生成立の鍵と考えパラサイトシグナルと名付けた。

【掲載された学術誌】

・米国科学アカデミー紀要 (Proceedings of National Academy of Science of the United States of America) (2009 年 1 月 20 日)

‘Tetrapyrrole signal as a cell cycle coordinator from organelle to nuclear DNA replication in plant cells’

Kobayashi Y, Kanesaki Y, Tanaka A, Kurolwa H, Kurolwa T, Tanaka K.

Proc. Natl. Acad. Sci. USA 106, 803-807, 2009

○電子スピンの運動の新しい概念 (融合科学研究科 坂本一之准教授 ほか)

【研究成果の概要】

固体物質の構造を三次元から二次元、一次元と低下させると新奇の物理現象が発現することがあります。1960 年に提唱された、ラッシュバ効果と呼ばれる二次元非磁性体において電子スピンの偏極する現象もその 1 つです。偏極した電子スピンはフラッシュメモリなどの磁気記録媒体や、次世代半導体スピントロニクスデバイスの根源ですが、ラッシュバ効果によって発現したものは後者と関連します。近年、ラッシュバ効果はようやくいくつかの二次元固体表面で観測されるようになり、電子が自由に動き回れる“理想的”な二次元系を用いた理論的予測の枠内で実験結果が説明されました。しかし“現実”の二次元電子系では原子が周期的に並んでいることから電子の動きが制御され、理想的な系と異なる運動をするはずで、そこで同研究グループはスピントロニクスデバイスの実現に不可欠である、現実の系でのラッシュバ効果の理解のため、元素の特性から大きなラッシュバ効果が期待でき、3 回対称性 (120° 回転すると元の構造と同じになる) の周期的な構造を有する、ビスマスを吸着させたシリコン表面を用いて研究しました。

研究グループは東北大学理学研究科、イタリアの放射光施設エレットラおよび広島大学の放射光科学研究センターにおいて角度分解光電子分光とスピン分解光電子分光という 2 つの実験手法と、広島大学先端物質科学研究科で開発された第一原理計算による理論的手法を用いてビスマス吸着シリコン表面での電子バンドと電子スピンを調べました。その結果、巨大なラッシュバ効果を観測したのみでなく、これまでその発現に必要な不可欠であると考えられていた“時間反転対称性”がなくともラッシュバ効果が発現するということがわかりました。電子スピンの運動を理解する上で不可欠である等エネルギー面の形状が不思議な非渦構造をとりうるということがわかりました。ビスマス吸着シリコン表面の対称性を考慮してラッシュバ効果を理論的に考察することにより、時間反転対称性がなくとも原子構造の対称性に起因してラッシュバ効果が発現することが可能であることと、この特異なラッシュバ効果により、これまで予想もされてなかった非渦構造を有する異常なラッシュバ効果が発現することがわかりました。これらの結果は、ラッシュバ効果の発現に必要な不可欠であると考えられていた時間反転対称性が不要であり、ラッシュバ効果による電子スピンの運動を理解するためには二次元構造の対称性の情報が欠かせないことを意味します。

【掲載された学術誌】

・Physical Review Letters (2009 年 10 月 5 日)

‘Peculiar Rashba Splitting Originating from the Two-Dimensional Symmetry of the Surface’

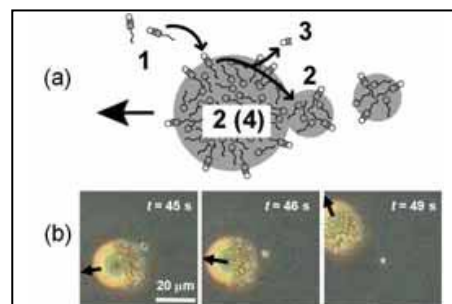
Kazuyuki Sakamoto, Haruya Kakuta, Katsuaki Sugawara, Koji Miyamoto, Akio Kimura, Takuya Kuzumaki, Nobuo Ueno, Emilia Annese, Jun Fujii, Ayaka Kodama, Tatsuya Shishidou, Hirofumi Namatame, Masaki Taniguchi, Takafumi Sato, Takashi Takahashi, and Tamio Oguchi
Phys. Rev. Lett. 103, 156801 (2009) - Published October 5, 2009

○“界面活性剤を燃料に”水中を泳ぎまわる油滴（工学研究科 豊田太郎助教 ほか）

【研究成果の概要】

1. どんな現象を発見したか

油の粒を界面活性剤の溶液に添加すれば、油の粒に界面活性剤が取り込まれ、油は乳化される。しかし、油の粒に、界面活性剤を分解する触媒を予め配合しておけばどうなるであろうか？我々は加水分解されやすい合成界面活性剤（1）を水中に溶かしておき、触媒（4）を仕込んだ油滴（2）で、水中の界面活性剤を分解させる実験を行った。すると、油滴内部に取り込まれた界面活性剤が、油分子（2）と水溶性分子（3）に分解されるのに伴い、直径100マイクロメートルほどの油滴が、分解物を放出しながら、毎秒数十マイクロメートルの速さで一方向に泳ぐことを発見した。泳ぐ油滴の後部の表面には、界面活性剤が分解された油分子が集まれば、次々と粒となって放出されてゆく（図a）。また、泳ぐ油滴どうしが偶然接近した場合、正面から近づきあうと互いに避け合い、同方向で近づきあうと連れ添って泳ぐという新しい運動パターンを示すこともわかった（図b）。



2. なぜこのような運動をするのか？

この油滴の内部では、泳ぐ方向に沿った対流が生じ、分解物を油滴後部表面に寄せ集め放出する。界面活性剤を前部で取り込み、後部で分解物を放出することで、油滴表面の界面活性剤の濃度は非平衡状態に保たれる。それが駆動力となり、自ら泳ぐというメカニズムが考えられる。「自ら泳ぐことにより、油滴は新たな界面活性剤を得て泳ぎつづけることができる。」まさにセルフ・サステイナブルな系である。

3. 今回発見した動く油滴の特徴

これまでに報告された動く油滴は、油滴の接するガラス界面との界面エネルギーを利用したり、油滴の有機物質そのものを消費するものであった。今回の泳ぐ油滴の特徴は、以下の2点にある。

1) 外部からの界面活性剤を燃料としているため、界面活性剤を外から添加さえすれば、泳ぎ続けられる。これは、生物が代謝の過程で運動エネルギーを得て動き続けることができることを、最も単純にしたモデルということができる。

2) 2つの油滴がたまたま近づきあうと、新しい運動パターンを示す。油滴が泳ぐことで、その周囲の環境（水の流れや燃料である界面活性剤濃度）を変え、その環境に油滴が応答することで運動パターンが変わるという、原始的なコミュニケーションのモデルとして興味深い。

【掲載された学術誌】

・アメリカ化学会誌「Journal of the American Chemical Society」（2009年3月24日電子版）
‘Self-Propelled Oil Droplet Consuming “Fuel” Surfactant’
Taro Toyota, Naoto Maru, Martin M. Hanczyc, Takashi Ikegami and Tadashi Sugawara.
J. Am. Chem. Soc., 2009, 131 (14), pp 5012-5013 DOI: 10.1021/ja806689p
Publication Date (Web): March 24, 2009

○NMRで天然ムチンの複雑で独自の立体構造の解析（分析センター 関 宏子准教授 ほか）

【研究成果の概要】

(1) 繰り返し基本構造の解析

NMR測定の結果、ペプチド鎖を構成する各アミノ酸と、ペプチド鎖につながったGalNAcの信号をすべて同定しました。特に、繰り返し構造を構成する8個のアミノ酸には、バリン、トレオニン、アラニンが各2個ずつ含まれ、トレオニンに接続したGalNAcも2つ存在していました。同種のアミノ酸でも、それぞれのアミノ酸の位置を区別して測定することができました。トレオニンの信号は、すべてGalNAcがつながっていることを示し、クニウムチンの糖鎖には欠落がないことが分かりました。

アミノ酸のα水素の位置とカルボニル基の炭素の位置（図1）の間の相関信号を得ることができる、2次元NMRの「HMBC」という手法で解析したところ、同定した信号のそれぞれから、アミノ酸の1次構造配列の順番通りに、相関信号を数珠つなぎにたどることができました。これまでは、ペプチド鎖を末端から一つ一つ切断するエドマン分解で、手間と時間をかけて解析していましたが、この相関信号の測定方法は、NMRで一気にアミノ酸の繰り返し配列を解析できることを示しました。小さな分子や、人工の分子と違って、天然の高分子化合物は、測定対象の同位体原子を濃縮したり、同位体で標識して位置を測定する手法を使うことができないため、HMBCで明瞭な信号を得ることは難しいとされています。今回の成果は、天然のままのタンパク質で測定に成功した、大変めずらしい例といえます。また、今回測定した位置信号から判断する限り、クニウムチンには、単純な繰り返し配列以外のペプチドが、ほとんど存在していないことが分かりました。すなわち、ほかのムチンと違って均質なペプチド鎖を持っていることを突き止めました。

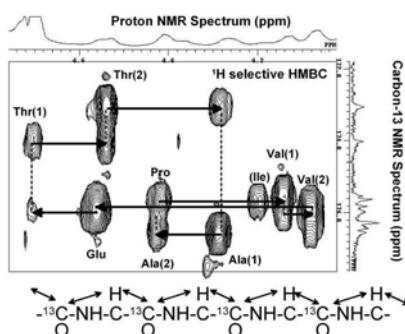
(2) Oグリコシド結合まわりの局所立体構造の解析

糖タンパク質に含まれる糖鎖は、タンパク質との結合の形でN型糖鎖、O型糖鎖の2種類に分類されています。O型

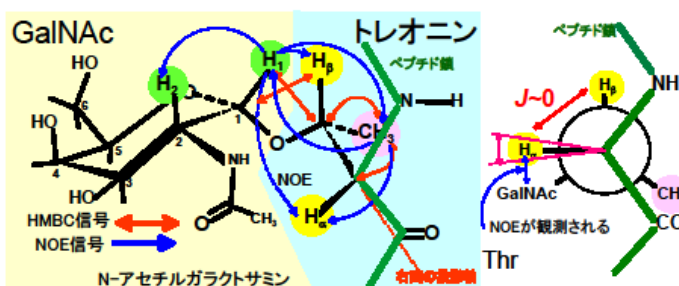
糖鎖は、アミノ酸のトレオニンやセリンの水 4 酸基に糖鎖が結合（O グリコシド結合）したもので、ムチン型糖鎖とも呼ばれるとおり、ムチンの特徴を示す構造です。研究グループでは、さまざまな NMR の手法を用いて、このムチンの核心部分である GalNAc - トレオニンの部分構造の、O グリコシド結合回りの原子から得る相関信号を詳細に測定し、トレオニンの 1 位と 2 位の炭素を結ぶ結合の回転が止まっていることを突き止めました（図 2）。長いペプチド鎖と糖鎖が、相互に干渉しあわないように反対側のポジションを取ることによって、結合が固定されているものと推測できます。ムチンのペプチド鎖は、ひも状にまっすぐ伸び、糖鎖はそれを覆うように枝分かれしていますが、O グリコシド結合で枝分かれのブロックを作る GalNAc - トレオニン部分が、かさ高く比較的自由度のない構造となっていました。このことは、ムチンが伸びきったひも状構造を取らざるを得ない一つの原因と考えられます。この構造は、高分子構造や運動状態に大きな影響を与え、ムチンの持つさまざまな作用や機能に関係しているものと思われます。今後、分子動力学などを用いた理論計算によって、より正確な構造と機能を明らかにする必要があります。

今回の測定は、通常の 2 次元 NMR 測定よりも、2 次元 NMR チャートに埋もれた信号の一つ一つを 1 次元測定によって丁寧に吟味する手法を駆使したことで解析を達成することができました。これは、ムチンをはじめとする、不均一であるがゆえに測定が困難だった試料の NMR 測定の可能性を広げるものと考えています。

(図 1)



(図 2)



【掲載された学術誌】

・「Journal of Natural Products」(2009 年 4 月 16 日電子版)

‘NMR Study on a Novel Mucin from Jellyfish in Natural Abundance, Qniumucin from Aurelia aurita’

Jun Uzawa, Makoto Urai, Takayuki Baba, Hiroko Seki, Kayoko Taniguchi and Kiminori Ushida

J. Nat. Prod., 2009, 72 (5), pp 818-823 DOI: 10.1021/np800601j

Publication Date (Web): April 16, 2009

○植物が自ら作る抗がん物質に対する自己体制機構を解明（薬学研究院 斉藤和季教授 ほか）

【研究成果の概要】

本学薬学研究院の斉藤和季教授、山崎真巳准教授、スパート・シリカンタラマス研究員らは、植物が自ら生産する抗がん物質に対する自己耐性機構を解明しました。

現在、がん患者の治療のため、カンプトテシンなど植物成分由来の抗がん物質が広く臨床に使われています。このうち、カンプトテシンは植物と動物両方の細胞に共通する DNA 複製メカニズムに必須な、DNA トポイソメラーゼ I という分子の働きを阻害することによって抗がん作用を発揮します。そのため、カンプトテシンはそれを生産する植物細胞の DNA トポイソメラーゼ I も阻害してしまうので、生産植物には自己耐性が備わっていなければなりません。

研究グループは、カンプトテシンを生産する植物では DNA トポイソメラーゼ I に特異的なアミノ酸変異が起こること、耐性能を獲得していることを突き止めました。この耐性を与える変異を詳細に調べたところ、カンプトテシン耐性のヒトがん細胞でも見られた変異の他に、ヒトがん細胞では見つかっていない新たな変異も発見されました。これは本物質をヒトのがん治療に用いる際に、臨床の現場で今後見出されるかもしれない新たな耐性変異を予測するための情報を提供するものです。

また、カンプトテシンを生産しない近縁植物の DNA トポイソメラーゼ I についても調べた結果、生産植物の変異による自己耐性能の獲得はカンプトテシンの生産能の獲得と共進化していることが明らかになりました。

これらの成果は、薬用植物での抗がん物質のより効率的な生産に寄与するばかりでなく、臨床現場での抗がん剤耐性の機構解明への応用が期待できます。将来、より有効な抗がん剤の開発やがん治療を効果的にするために役立つ研究成果です。

【掲載された学術誌】

・米国科学アカデミー紀要 (Proceedings of National Academy of Science) (2008 年 4 月 28 日の週 電子版)

‘Mutations in topoisomerase I as a self-resistance mechanism coevolved with the production of the anticancer alkaloid camptothecin in plants’

Supaart Sirikantaramas, Mami Yamazaki, and Kazuki Saito

Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 105, 6782-6786 (2008)

○造血幹細胞の多能性を維持する仕組み発見（医学研究院 岩間厚志教授 ほか）

【研究成果の概要】

JST 目的基礎研究事業の一環として、千葉大学 大学院医学研究院の岩間厚志教授らは、造血幹細胞が全ての血液細胞を生み出す能力を維持するのに、ES 細胞／iPS 細胞と同様に、ポリコーム複合体という酵素が重要な働きを果たしていることを見つけました。

ES／iPS 細胞などの多能性幹細胞で、細胞分化に関わる遺伝子群は、分化の合図を受けた際にすぐに働けるように遺伝子を束ねるたんぱく質であるヒストンが活性化されていますが、同時に分化の合図を受けるまでは働かないように、ポリコーム複合体によって抑制化もされています。すなわち、車に例えると、アクセルと同時にブレーキも踏んでいる状態にあるといえます。一方、造血幹細胞などの組織幹細胞もある程度の多能性を持っていますが、遺伝子の働きがその環境によってどのように制御されているのかは明らかになっていませんでした。

本研究グループは今回、ポリコーム複合体を構成するたんぱく質の1つである Bmi1 を欠損するマウスの造血幹細胞を解析したところ、造血幹細胞では通常機能しない血液細胞の分化に関わる遺伝子群が活性化しており、その多能性が損なわれていることを見いだししました。活性化している遺伝子を取り巻く環境を調べたところ、ES／iPS 細胞と同様に、血液細胞の分化に関わる遺伝子群は活性化と抑制化が同時に起こっている状態にあり、Bmi1 欠損マウスでは抑制化が解除されていることが分かりました。Bmi1 については、これまでに本研究グループによって、造血幹細胞の維持に必要であること、活性増強により造血幹細胞を増やせることが報告されてきましたが、今回の成果はその機序を解明する発見です。

本研究で得られた成果は、幹細胞における遺伝子修飾のエピゲノムの理解を深めるとともに、幹細胞の遺伝子環境をどのように操作すれば目的の細胞を分化誘導または増幅できるかという技術的問題に関連する重要な新知見です。iPS 細胞から造血幹細胞を誘導する技術のように、今後、再生医療など幹細胞を用いた医療技術の進展に寄与することが期待されます。

【掲載された学術誌】

・「Cell Stem Cell」（2010 年 3 月 5 日）

‘Poised lineage specification in multipotential hematopoietic stem and progenitor cells by the polycomb protein Bmi1’

Hideyuki Oguro, Jin Yuan, Hitoshi Ichikawa, Tomokatsu Ikawa, Satoshi Yamazaki, Hiroshi Kawamoto, Hiromitsu Nakauchi, Atsushi Iwama

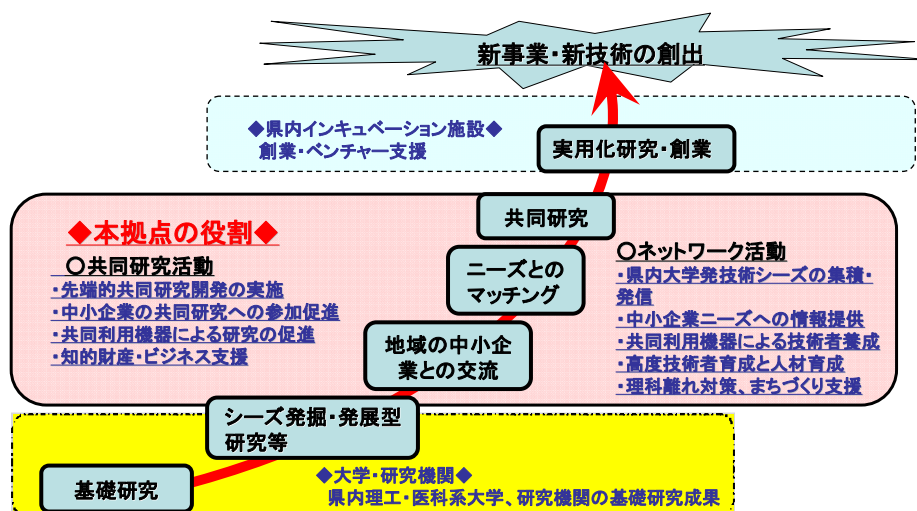
Volume 6, Issue 3, 279-286, 5 March 2010

（出典：事務局データ）

資料101-1：千葉大学サイエンスパークセンター概要

サイエンスパークセンター(千葉大学 CSPC)

～産学官連携による新事業・新技術の創出拠点～





(出典：事務局データ)

資料101-2：千葉学ブックレット既刊一覧

タイトル	著者	発行
【房総の自然－1】房総半島の地学散歩―海から山へ（第一巻）	宮内崇裕・理学研究科地球科学コース	2008. 8
【房総の自然－2】房総半島の地学散歩―海から山へ（第二巻）	宮内崇裕・理学研究科地球科学コース	2009. 3
【千葉の教育と文化－1】千葉版―企業とつくる先端キャリア教育	藤川大祐	2008. 6
【千葉の教育と文化－2】子どもの地球探検隊	高橋典嗣・山崎良雄	2008. 6
【千葉の政治経済－1】千葉の内なる国際化―地域と教育の現場から	石戸 光	2009. 3
【房総の歴史と文化－1】房総の伝説を「鉄」で読む	井上孝夫	2008. 6
【房総の歴史と文化－2】海の暮らしと房総の民俗	和田 健	2009. 12
【房総の歴史と文化－3】近代の千葉と中国留学生たち	見城悌治	2009. 12
【千葉の健康－1】地域医療安全に貢献する Ai センターの設立	山本正二	2008. 11
【千葉の健康－3】患者中心の医療を実現する―千葉大学亥鼻 IPE からの発信―	酒井郁子・田邊政裕・石井伊都子	2008. 11
【千葉の健康－4】千葉県の薬草Ⅰ～現代医療への活用に向けて～	池上文雄	2009. 12
【千葉の健康－5】千葉県の薬草Ⅱ～顕花植物 130 種類の特性とその用途～	池上文雄	2009. 12
【都市と農業－1】手賀沼発 農業で沼の水を浄化する	高垣美智子・丸尾 達	2007. 5
【都市と農業－2】生物資源を活かしたまちづくり―山武町バイオマスタウン構想からの発信―	篠山浩文	2008. 6
【都市と自然環境－1】ミツバツツジはささやく 房総・里山の社会生態学	小林達明・古賀陽子	2007. 5
【都市と自然環境－2】千葉っ子を犯罪から守る	中村 攻・近江屋一朗	2008. 6
【都市と自然環境－3】里山が危ない―負の遺産・産廃―	齋藤雪彦	2009. 3

(出典：千葉大学HP)

資料102－ 1 ：研究支援企画室規程

平成20年4月1日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人千葉大学研究支援企画室(以下「企画室」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 企画室は、本学における研究を支援するための方策等について企画・立案し、研究者個々の研究水準の向上を図り、更なる研究の充実・推進に資することを目的とする。

(業務)

第3条 企画室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 学内研究支援プロジェクトの企画・立案及び審査・評価に関すること。
- 二 競争的外部資金の情報収集・分析・広報並びに獲得戦略の企画・推進に関すること。(学術推進企画室所掌分は除く。)
- 三 大型研究機器の全学的共同利用に関すること。
- 四 その他研究支援に関すること。

(組織)

第4条 企画室に、次の職員を置く。

- 一 室長
- 二 室員

2 企画室に、副室長を置くことができる。

(室長)

第5条 室長は、研究担当理事をもって充てる。

2 室長は、企画室の業務を総括する。

(副室長)

第6条 副室長は、室長が指名する者をもって充てる。

2 副室長は、室長の職務を補佐する。

(室員)

第7条 室員は、次の者をもって充てる。

- 一 副理事 若干名
- 二 学内教員から 若干名
- 三 財務部長
- 四 学術国際部長
- 五 学術国際部研究推進課長
- 六 その他室長が必要と認める者

2 前項第1号及び第2号の室員は、室長が指名する。

(室員以外の参画)

第8条 室長は、必要と認めるときは、室員以外の者を企画室に参画させることができる。

(事務)

第9条 企画室の事務は、学術国際部研究推進課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、企画室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

(出典：国立大学法人千葉大学研究支援企画室規程)

資料102-2 : COEスタートアッププログラム応募要領及び採択一覧

◆平成21年度千葉大学COEスタートアッププログラム応募要領

1. 目的

本プログラムは、本学大学院等の研究機能を世界水準の研究基盤として充実・強化することを目的として、原則として50歳以下の研究者で組織された中核的研究拠点の形成を計画している研究者グループに支援するものである。

2. 対象

次のいずれかに該当する拠点形成計画であり、共同して研究を推進する研究者グループの有機的な連携の下に研究水準の向上を図ることにより、研究の発展が著しく期待できる研究活動を対象とします。

(1) 計画する拠点形成全体の研究水準が高く、当該分野においてわが国を代表する研究チームとなることが期待できるもの

(2) 学問領域の創成又は既存の研究分野の枠に収まらない学際領域を融合することで、近い将来わが国を代表する研究チームとなることが期待できるもの

(3) 学術の国際的趨勢等の観点からみて重要であるが、わが国において立ち遅れており、その進展に特別な配慮を必要とするもので、その活躍において、わが国を代表する研究チームとなることが期待できるもの

(4) 社会的諸課題の解決に密接な関連を有しており、これらの解決を図るため、その研究成果に対する社会的要請の高いもので、その活躍において、わが国を代表する研究チームとなることが期待できるもの

3. 応募金額

単年度あたり300万円～500万円以内

4. 研究期間

2年間

5. 採択件数

10件程度

6. 申請方法

別添「計画調書」「個人調書」を作成し、プログラムリーダーが所属する部局の事務がとりまとめのうえ、研究協力課へ提出。

7. 応募、採択に向けた日程(予定)

応募書類提出期限 平成21年5月11日(月)

書面審査 平成21年5月下旬

ヒアリング審査 平成21年6月下旬

採択の可否 平成21年7月

※応募に際しての説明会を4月上旬に予定しています。

説明会、ヒアリング審査等の日程については、別途通知します。

8. 申請にあたっての留意点

(1) プログラム担当者: 4名～6名とし、そのうち1名をリーダーとする。但し、メンバーは、同一研究分野の研究者のみの構成としないで、他部局や他分野(例示:「科研費 系・分野・分科・細目」の分科レベル)の研究者を1名以上入れて組織することを原則とする。

※ この考え方は、既存の学問分野を尊重しつつ、新たな学問領域の創成・学際性・融合性を主眼としていることから、一定の条件を付したものであるが、結果として拠点形成の観点から、同一研究分野の研究者のみで構成された研究組織であっても、それを排除するものではない。

(2) 申請メンバーの年齢制限: 原則として、50歳以下(平成21年4月1日現在で、50歳以下)の常勤の研究者とする。

※ この考え方は、近い将来、本学においてそれぞれの分野で牽引者となってもらうため、敢えて年齢制限を設けたものである。なお、学問分野の特性からメンバーの一部に50歳を超えた教員が構成メンバーとなっても申請は排除するものではない。

(3) 重複の制限: 同一研究者が本プログラムのプログラム担当者として申請できる件数は1件限りとする。また、グローバルCOEの拠点リーダーは、本プログラムメンバーに加わることはできない。但し、他の事業推進担当者は、この限りでない。

※ 同一研究者が複数のプログラムに関与する事が予想される場合であっても、申請できるプログラムは1件限りとするが、プログラムに採択された後、他のプログラム研究協議等に参画することは差し支えない。また、本プログラムリーダーについては、他の大型プログラム等との過度な重複がないように配慮いただきたい。

9. 審査方法等

(1) 審査・選考

「研究支援企画室」が「学術推進企画室」の協力を得て行い、学長が決定する。

(2) 審査方法

① ピアレビューによる書面審査、②書面審査の結果を踏まえヒアリング審査を行い、合議により決定する。

(3) 審査の観点

① 拠点形成計画の内容が近い将来国際的に卓越した研究拠点を指すものであり、国際的なネットワークの構築など、国際的な研究活動が期待されているものであるか。

② 研究拠点の形成計画に参画する教員が、実質的に連携・協力し、拠点形成に向けて充分貢献できる体制になっているか。

③ 国際的に卓越した研究拠点形成にあたって、参画する教員が研究活動に必要な実績を有しているか。

10. 採択拠点の主な活動例

(1) 原則として月1回、グループ内での意見交換を行う。

(2) 各年度末に、研究支援企画室において研究成果の発表を行う。

(3) 海外の優れた研究拠点に赴いての共同研究・意見交換や国際学会等での発表を行う。

◆平成21年度採択一覧

申請分野	所 属	プログラムリーダー	職 名	プ ロ グ ラ ム 名 称
人社	文学部	山 本 芳 久	准教授	邂逅と共生の歴史学:新たな世界史像の構築
人社	文学部	伝 康 晴	教 授	人間理解のための認知適応科学の創成
人社	人文社会科学研究科	倉 阪 秀 史	教 授	環境制約・人口減少下でのコミュニティ形成
理工	理学研究科	吉 田 滋	准教授	極限ハドロン宇宙物理学国際研究拠点の形成
理工	工学研究科	劉 浩	教 授	オープンシステム・メカニカルデザイン
理工	融合科学研究科	石 井 久 夫	教 授	大型有機分子集合系の電子論の解明
理工	融合科学研究科	尾 松 孝 茂	教 授	ナノイメージング光科学
理工	環境リモートセンシング研究センター	J T スリスマンティヨ	准教授	地球診断用小型衛星研究開発拠点の形成
生物	園芸学研究科	田 中 寛	教 授	代謝変換プログラムの生体制御への応用
生物	医学研究院	齋 藤 哲 一 郎	教 授	発生システムの分子基盤解析拠点の構築
生物	医学研究院	松 原 久 裕	教 授	戦略的臨床検体活用による消化器癌研究拠点
生物	医学研究院	本 橋 新 一 郎	准教授	難治性疾患の革新的最先端治療TR拠点
生物	医学研究院	岩 間 厚 志	教 授	疾患エピジェティクスの統合的理解とその制御
生物	予防医学センター	森 千 里	センター長	新しいPublic Health (公共健康学) の研究拠点の形成

(出典：事務局データ)

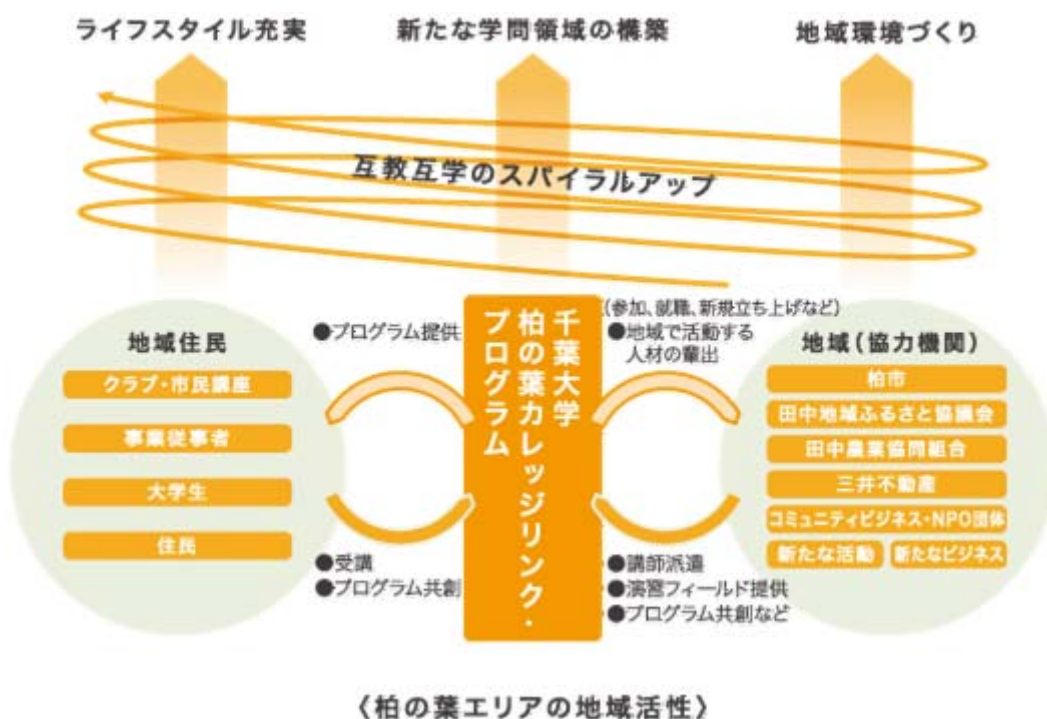
資料118-1：柏の葉カレッジリンク・プログラム概要

◆基本理念

地域全体が学びの場となる
柏の葉の“アゴラ（広場）”をめざします。

これからの環境、健康、食に関する問題は、
地域や暮らしの中で考え、検証すべきだと考えました。
だからこそ、地域との強い連携を大切にします。

「千葉大学 柏の葉カレッジリンク・プログラム」は、柏の葉エリアと強い連携を図ることで、地域にとっては大学の持つ豊富な知的資源を活用でき、新しい交流により知的・文化的刺激が得られ、健康で充実した暮らしが可能となります。一方、学ぶ人たちにとっては人生経験豊富な地域の社会人との交流が「生きた学び」の機会となります。体系的な学問としての考察だけでなく、経験や立場の異なるさまざまな人たちの経験やノウハウを共有し、そこから新しい刺激やネットワークを得る、まさに古代ギリシャにおける民会の場を意味した“アゴラ（広場）”のような互教互学のスタイルをめざします。



〈柏の葉エリアの地域活性〉

●カレッジリンクとは

大学（カレッジ）と地域社会が組織的に連携（リンク）し、年齢に関わらず地域の誰もが大学で共に学びあう機会を創出する新しい学習プログラムで、約15年前からアメリカで従来にない生涯学習・世代間交流の試みとして広がっています。アメリカでの試みを関西大学客員教授で村田アソシエイツ（株）代表の村田裕之氏が日本の文化・習慣を考慮して体系化し、関西大学らと日本で初めて導入しました。なお、「カレッジリンク」は、村田アソシエイツ（株）の登録商標です。

◆プログラム

<2009年度後期 基礎コース>

コーディネーター/ 鈴木 弘樹 千葉大学助教

第1回 11月7日(土) 9:50～13:00	「市民が創るサステナブルデザイン」 1) コミュニティとヒューマンリレーション 徳山郁夫 千葉大学教授 2) 大学と地域の連携によるまちづくり 上野 武 千葉大学教授 3) “まちの元気”とコミュニケーション 西田直海 まちづくり組織 Drops 4) グループワーク「新しいライフスタイルのキャッチコピーを考えよう」
第2回	「健康とサステナブルデザイン」 1) 環境改善と予防医学 戸高恵美子 千葉大学助教

11月21日(土) 9:50~13:00	2) 生をささえる漢方医学 3) 健康づくりに関わる市民 4) グループワーク「私たちの元気を支えるもの」	金子明代 千葉大学助教 小林幸一郎 NPO モンキーマジック
第3回 12月5日(土) 9:50~13:00	「農・食とサステナブルデザイン」 1) 見る緑・さわる緑・食べる緑・つくる緑 2) 医食同源と薬膳 3) 柏で地産地消 4) グループワーク「私たちが考える農的生活」	北条雅章 千葉大学准教授 三輪正幸 千葉大学助教 角野めぐみ 千葉大学助教 染谷 茂 かしわで代表
第4回 12月19日(土) 9:50~13:00	「環境とサステナブルデザイン」 1) 環境健康都市宣言 2) 持続可能な緑の環境づくり 3) グループワーク「身の回りの風景を持続させるために」 4) 修了式(高垣 美智子 千葉大学環境健康フィールド科学センター長)	栗生 明 千葉大学教授 渡辺 均 千葉大学准教授

<2009年度後期 専門コース【健康サステナブルデザイン】>

コーディネーター/ 野田 勝二 千葉大学助教

第1回 11月7日(土) 9:50~13:00	「全人医療／漢方と鍼灸から」 金子明代(千葉大学助教)、松本 毅(千葉大学助教) 講 義／身体、精神、霊性について 演 習／鍼灸体験
第2回 11月21日(土) 9:50~13:00	「未病と予防医学」 喜多敏明(千葉大学准教授)、森 千里(千葉大学教授) 講 義／東洋医学による未病・ストレス診断 他 演 習／未病とストレス診断
第3回 12月5日(土) 9:50~13:00	「漢方薬と西洋薬」 角野めぐみ(千葉大学助教)、外部招待講師 講 義／漢方薬と西洋薬の歴史と考え方 他 演 習／漢方薬局見学と煎じ薬作成
第4回 12月19日(土) 9:50~13:00	「農作物の機能性」 江頭祐嘉合(千葉大学教授)、塚越 覚(千葉大学助教) 講 義／栽培技術の発達と含有機能性成分の変化。美味しさと機能性成分 演 習／野菜・果実の糖度測定。その他の成分の簡易分析
第5回 1月9日(土) 9:50~14:30	「薬膳と健康」 池上 文雄(千葉大学教授)、外部招待講師 講 義／薬膳の歴史と考え方 他 演 習／薬膳料理作りと昼食会(第5回は14時30分終了予定)
第6回 1月23日(土) 9:50~13:00	「健康サステナブルデザイン発表」 オールキャスト テーマ／健康サステナブルデザイン案の要素と、その必要性について 実 習／グループ討議と発表

(出典：千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラムHP)

資料119－1：製品化の例（外科用剪刀）

本センター手術・生体機能支援機器研究部門及び開発設計試作工房室で研究開発した医療用はさみが「2009 年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

この製品は従来、手術中、臓器の剥離・切断の目的に使用される医療用剪刀（はさみ）に対して、デザインと機能性を大きく改善したものです。剪刀の持ち手部分にエルゴノミクスデザインを導入し、手指との接触面積を増やすことで、手により馴染み、刃先のブレを抑えることと、刃先に指の力を正確に伝えるという基本機能を大幅に向上させました。その結果、剪刀の持ち手が指に食い込む状況が解消され、器械台から容易に持ち上げられる利点も生まれています。更に、刃先の先端にレーザーマーキングを入れ、内視鏡の拡大画面においても、刃先が組織に侵入する深さの視認性を向上させています。今回、先端をより細く、深部での操作性を向上させたシリーズを追加致しました。

2009 年度グッドデザイン賞のホームページでは、「剪刀の持ち手部分に手指との接触面積を増し、刃先のブレを抑え、刃先に指の力を正確に伝えるなど基本機能を充実させたデザインとした点、刃先の先端にレーザーマーキングを入れ、内視鏡の拡大画面において刃先の視認性を向上させるなどユーザーの視点に立った価値を高めたデザインを導入した点、前記要素を調和し全体としてまとまったデザインを実現した点を評価した。」という審査委員のコメントが紹介されています。

○製品名称：

医療用はさみ[ジョーウェル・エルゴ・スーパー剪刀シリーズ]

○プロデューサー：

株式会社メディカル R&D 代表取締役 宮武哲也
千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センター
手術・生体機能支援機器研究部門 教授 五十嵐 辰男

○ディレクター：

株式会社東光舎 常務取締役 井上研司
千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻 准教授 下村義弘

○デザイナー：

千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センター
開発設計試作工房室 関根雅



（出典：千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センターHP）

資料 123－1：平成 21 年度公開講座一覧

◆西千葉地区開催企画

講 座 名	実 施 期 間	対 象	開催場所	受講者数
カビ！？ ～そろそろ気になりますね～ Part4	6/14(日) 14：00～16：30	一般市民	けやき会館大ホール	245 名
バスケットボール指導者講習会	8/1(土)・2(日) 10：00～17：00	ミ・バスケットボール、中・ 高等学校の指導者	第一体育館	5 名
水泳教室	8/5～8、10～12 (7 日間) 13：30～16：30	小学校 3 年～ 中学 2 年	プール	19 名
英語のしくみ	8/22(土) 9：00～12：00	英語科教員及び英語 に関心のある学生・一 般市民	総合校舎 A 号館 2 階 201	60 名
記憶と時間	9/12(土)・19(土)・ 26(土) 13：30～17：00	一般市民	人文社会科学系総合研 究棟マルチメディア会 議室	57 名
千葉圏域コンソーシアム公開市 民講座 ちばから考える国際化	9/27(日) 13：00～16：30	一般市民	けやき会館大ホール	48 名
裁判員制度を考える	10/17(土)・24(土) 13：30～16：20	一般市民	人文社会科学系総合研 究棟マルチメディア会 議室	26 名

千葉大学創立 60 周年記念 平成 21 年度工学部公開講座 未来をひらく都市と建築の環境 技術について	10/31(土) 13:00～16:20	一般市民	工学部 17 号棟 112 講義 室	53 名
千葉大学創立 60 周年記念 公開市民講座 千葉学のいま ―海と里山の歴史、 これからのまち―	11/14(土) 13:00～15:30	一般市民	けやき会館大ホール	133 名

(9 講座、646 名受講)

◆亥鼻地区開催企画

講 座 名	実 施 期 間	対 象	開催場所	受講者数
加齢と病気 ―この症状、危険な病気の前触 れ？年のせい？―	6/4(木)・11(木)・ 18(木)・25(木)・ 7/2(木) 18:00～19:30	一般市民	医学部・医学研究院	105 名
慢性疾患看護の魅力 ―継続看護と退院支援の観点か ら―	10/17(土) 10:00～16:00	保健・医療・福祉職	看護学部 講義・実習室	64 名

(2 講座、169 名受講)

◆松戸・柏の葉地区開催企画

講 座 名	実 施 期 間	対 象	開催場所	受講者数
食品安全ビジネス論Ⅰ（安全編）	4 月～7 月 16：20～17：50	食品業界関係者一般 市民	園芸学部	11 名
食品安全ビジネス論Ⅱ（安心編）	10 月～2 月 16：20～17：50	食品業界関係者一般 市民	園芸学部	10 名
楽しい、ためになる果樹講座	10 月～12 月 13：00～15：00	一般市民	園芸学部	41 名
柏の葉カレッジリンク・プログラ ム 2009 年度前期【概論コース】	6/6(土)・20(土)・ 7/4(土)・18(土) 9：50～13：00	一般市民	環境健康フィールド科学セン ター・ホール	13 名
柏の葉カレッジリンク・プログラ ム 2009 年度前期【専門 A コ ース／サステナブルデザイン 学演習】	5/9(土)・23(土)・ 6/6(土)・20(土)・ 7/4(土)・18(土) 9：50～13：00	2009 年 1～3 月開催の 「柏の葉カレッジリ ンク・プログラム」修 了者		12 名
柏の葉カレッジリンク・プログラ ム 2009 年度前期【専門 B コ ース／サステナブルデザイン 学演習】	5/16(土)・30(土)・ 6/13(土)・27(土) 9：50～12：00 13：30～15：30			7 名
柏の葉カレッジリンク・プログラ ム 2009 年度後期・基礎コース、専 門コース	11/7～1/23 9：50～13：00 ・基礎コース 4 回 ・専門コース 6 回	地域住民	環境健康フィールド科学セン ター・ホール	基礎コース 22 人 専門コース 17 人
ケミレスタウンプロジェクト公 開講座 「環境改善型予防医学について ー未来世代のための街づくり ー」	7/14(火) 13：00～16：30	一般市民 企業等関係者	環境健康フィールド科学セン ター棟	12 名
	10/2(金) 13：00～16：30	企業等関係者		10 名
	11/26(木) 13：00～16：30			6 名
	2/18(木) 13：30～16：30			16 名
	2/23(火) 13：30～16：30			17 名
	3/3(火) 13：30～16：30			150 名

(8 講座、192 名受講)

◆千葉県内開催企画

講 座 名	実 施 期 間	対 象	開催場所	受講者数
千葉大学法経学部でまえ公開講座 「地域と大学との交流・連帯」	11/28(土) 13:30~17:00	一般市民	木更津市	26 名
	12/12(土) 13:30~17:00	一般市民	山武市	46 名
南房総のジオツアー 地球温暖化と巨大地震を探る	12/5(土) 8:45~18:00	一般および高校生	館山市 南房総市	17 名
カレッジリンク・シンポジウム 「いのち “にに向き合う生涯学習”」	12/13(日) 10:00~15:30	一般市民	さわやかちば県民プラザ	150 名

(3 講座、239 名受講)

【合計 22 講座、1,246 名受講】

(出典：事務局データ)

資料 123-2：未来の科学者養成講座プログラム概要

◆第2期スタートアップ公開講座（2009年7月20日）

開催日	開催場所	分野	担当	テーマ	内容
7月20日	西千葉キャンパス	生命科学	野村	タンパク質を解析しようータンパク質分子の分離と同定	私たちの体を形づくるタンパク質の、分析方法の基本を学びます。
		物理	東崎	光の屈折	半導体レーザー光を用いて空気と水の境界面における光の反射と屈折現象を観察して入射角・反射角・屈折角の関係を調べます。また全反射の現象を観察します。
		化学	林	銅が銀？金？錬金術師の反応	銅板を亜鉛の入った溶液に入れると銀色に変化し、取り出して加熱すると金色に変わります。銅が金色になるなんて、まるで、錬金術のようです。色の変化は化学の楽しみです。このテーマでは、反応のメカニズムまで考える実験を行います。
		工学	鈴木	ミニロボットを作ろう	2モーターで動くロボットを作ります。はんだづけや自在に動くための電気回路の基本を学び、実際にロボットが動くところまで作りましょう。今回は操作性をよりよくするにはどうすればいいのか？を考えます。

◆第2期ステップアップコース日程（2009年9月26日～2月13日）

開催日	開催場所	分野	担当	テーマ	内容
9月26日	千葉市科学館	生命科学	野村	遺伝子を改造しようー遺伝子工学の基礎を学ぶ	現在、生命科学の分野で行われているさまざまな操作の一つとして、DNAを決まった位置で切断する技術があります。制限酵素を使ってDNAを切断し、解析することを実習します。
	柏の葉フィールドセンター	物理	東崎	ボルダの振子	ガリレオが発見した振子の等時性を再体験。地球の万有引力が引き起こす重力加速度を求めよう。
10月24日	千葉市科学館	生命科学	米田	消化酵素の働き(デンプンの酵素分解)	でんぷんは、穀類やいも類に豊富に含まれており、エネルギー源として重要な栄養素です。私たちはでんぷんを体内でどのように消化しているのでしょうか。でんぷんの酵素分解を実験し、酵素が働きやすい条件や市販胃腸薬の作用について調べます。
	柏の葉フィールドセンター	化学	林	色の変化で、酸化還元をみる	青インクの顔料であるプルシアンブルーは、酸化状態と還元状態で色が大きく変わります。茶色の溶液からプルシアンブルーを電気分解で析出させたり、試薬で還元して析出さ

					せたりして、酸化還元反応を電子のやりとりとして実感します。
11月15日	千葉市科学館	化学	林	色の変化で、酸化還元をみる	青インクの顔料であるプルシアンブルーは、酸化状態と還元状態で色が大きく変わります。茶色の溶液からプルシアンブルーを電気分解で析出させたり、試薬で還元して析出させたりして、酸化還元反応を電子のやりとりとして実感します。
	県立中央博物館	生命科学	野村	犯人を捜せ(核酸の電気泳動による解析)	DNA を実際にしてみる。現在、犯罪調査でも使用されているアガロースゲル電気泳動などのDNA の解析技術に触れてみる。
12月13日	西千葉キャンパス	工学	板倉	飛行の原理入門	1. 模型飛行機に作用する空気力を測定します。2. 主翼周りの空気の流れを目で見て観察します。
	県立中央博物館	物理	東崎	熱放射とは	はじめに熱放射とは何かを実験を通して説明する。次に地球をとりまく熱放射の状況を解説する。
1月17日	県立中央博物館	生命科学	野村	DNA と個体差	アルコール分解酵素の遺伝子多型を解析し、遺伝と個体差について学ぶ。
1月31日	千葉市科学館	物理	加藤	弦楽器の振動数	弦楽器の音程は、弦の張力の強さ、単位長さ当たり質量、振動する長さで決まります。エレキギターのピックアップ・コイルに励磁電流を流す仕組みで弦を振動させ、これらと振動数との数量的な関係を調べます。
	柏の葉フィールドセンター	物理	東崎	石井3段アンプを用いた電荷の実験	石井信也先生（元千葉高校教諭）が開発したトランジスタ式高感度電流増幅器を用いて摩擦電気、静電誘導、物質の電気陰性度など実験を通して調べる。
2月7日	県立中央博物館	物理	東崎	電位分布の測定	導体平面に電極等を取り付けて平面上の等電位線を描き、電位の分布と電流の流れ方を考察する。
2月13日	千葉市科学館	物理	東崎	石井3段アンプを用いた電荷の実験	石井信也先生（元千葉高校教諭）が開発したトランジスタ式高感度電流増幅器を用いて摩擦電気、静電誘導、物質の電気陰性度など実験を通して調べる。
	柏の葉フィールドセンター	生命科学	野村	遺伝子を改造しようー遺伝子工学の基礎を学ぶ	現在、生命科学の分野で行われているさまざまな操作の一つとして、DNA を決まった位置で切断する技術があります。制限酵素を使ってDNA を切断し、解析することを実習します。

(出典：千葉大学未来の科学者育成講座

「ラボ on the デスク」から広がる科学の世界 HP)

資料 127-1：地域連携及び地域貢献活動に係る助成事業募集概要及び採択課題一覧

◆地域連携及び地域貢献活動に係る助成事業募集について

【趣旨】

地域連携推進企画室は、本学の地域連携及び地域貢献活動を推進するため、支援策の一つとして、その経費の全部又は一部について助成を行います。

【対象事業】

平成21年度内に、本学教職員及び学生(大学院生を含む)が、地域の住民・団体等と連携・協働して行う調査研究・市民講座・イベント等の活動であって、環境、生涯教育、地域づくり、福祉・保健、学術・芸術・スポーツの振興、国際交流・国際貢献等の分野で地域に貢献する事業を行う場合を本助成の対象とします。

【応募方法】

申請を希望する者(代表者)は、所属する部局の長(部局長)に「申請書」を提出してください。(記入例参照)
申請書様式は、学内ホームページの総務課ページからダウンロードしてください。

【ホームページアドレス <http://gakunai.jm.chiba-u.jp/>】

部局長は、提出のあった申請を取りまとめの上、理事（企画担当）あてに申請を行ってください。
なお、学生については、サークルの顧問教員や研究指導教員等を必ず代表者としてください。

【助成額・件数】

助成額：総額 100 万円

※事業内容を勘案して決定いたしますが、1 件あたり概ね 10 万円程度

採択予定件数：10 件以内

【選考】

地域連携推進企画室において審査を行い、理事（企画担当）が決定します。

※ 助成対象者には、事業終了後、事業成果等について「実績報告書」を提出していただきます。

◆平成 20 年度助成一覧

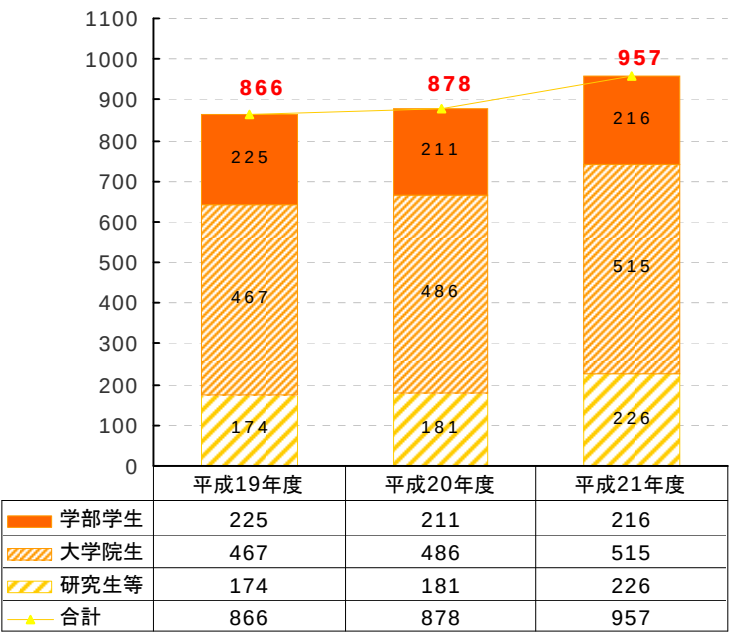
部 局 名	代表者氏名・職名	事 業 名 称
教育学部	佐藤 和夫・教授	習志野市におけるネットワークづくりと地域活性化
教育学部	加藤 修・教授	西千葉駅構内壁画制作
法経学部	広井 良典・教授	商店街活性化のためのコミュニティ講座開設事業
法経学部	倉阪 秀史・教授	湾岸まるごとゴミ拾い
法経学部	野沢 敏治・教授	法経学部「でまえ公開講座」
大学院理学研究科	伊藤 慎・教授	地球科学フィールドセミナー
大学院医学研究院	田村 裕・准教授	千葉大学亥鼻地区活性化のための「亥鼻山芸術の杜」構想
大学院医学研究院	鈴木 信夫・教授	水の安全性と健康管理
環境健康フィールド科学センター	塚越 寛・助教	柏市における小学校での花壇作りによる地域の活性化
環境健康フィールド科学センター	三輪 正幸・助教	柏の葉地区におけるミツバチを用いた環境教育

◆平成 21 年度助成一覧

部 局 名	代表者氏名・職名	事 業 名 称
教育学部	加藤 修・教授	久留里現代アート展2でのワークショップ「発光する記憶たち」
法経学部	倉阪 秀史・教授	まるごみ'09
大学院理学研究科	渚 勝・教授	サイエンスプロムナード運営
医学部附属病院	川口 直樹・講師	MG茶飲み会(千葉県下の重症筋無力症患者会)医療講演会開催
大学院薬学研究院	山浦 克典・講師	千産千消のOur(安房)オレンジ有効活用プロジェクト
大学院工学研究科	北原 理雄・教授	穴川るつぽ計画
大学院園芸学研究科	三島 孔明・助教	地域に対するみどりを生かした出前講座
大学院園芸学研究科	秋田 典子・准教授	コミュニティガーデン活動
大学院園芸学研究科	西山 未真・講師	四街道市の市民団体による食・農・環境連携プロジェクト作成のための調査研究
大学院園芸学研究科	木下 勇・教授	子供のための大都市高層住宅団地まちづくり活動

(出典：事務局データ)

資料 135－ 1 ： 留学生数



(出典：事務局データ)